コスモ石油グループ
コーポレートレポート2012

CORPORATE REPORT 2012

COSMO OIL CO., LTD.

Top Commitment

トップコミットメント

コスモ石油株式会社　代表取締役社長　社長執行役員
森川　桂造

森川桂造

中核事業である石油精製・販売事業の安全・安定操業を実現し、「垂直型の一貫総合エネルギー企業」として、社会的責任を果たしてまいります。

千葉製油所の復旧状況について

2011年度は、東日本大震災を契機とした千葉製油所火災・爆発事故の原因調査、再発防止策の策定、そして稼働再開に向けた復旧作業に注力した1年となりました。改めて、製油所周辺地域の皆様をはじめ関係する多くの方々に、大変なご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

コスモ石油は、2011年8月に事故調査委員会がまとめました「事故調査報告書」を監督官庁に提出し、行政指導を経て策定しました再発防止策をもとに、安全管理体制の再構築に全力で取り組んでまいりました。

そして2012年1月に精製装置の一部の稼働を再開し、3月から4月にかけては2系統の常圧蒸留装置も、定期整備に入るまでに稼働再開を果たすことができました。現在、完全復旧に向けて、事故で焼失した液化石油ガス（以下、LPG）タンクの新設を進めております。

こうした状況のなか、2012年6月28日に同じ千葉製油所で、アスファルトが製油所敷地外に漏洩するという事故が発生しました。重ねて心よりお詫び申し上げますとともに、ステークホルダーの皆様の期待に応えられますよう全力で再発防止と信頼回復に努めてまいります。

今後は、貯槽設備の耐震性改善や、緊急時対応能力・操作技術などハードとソフト両面の向上を推し進めることで保安技術レベルを高め、千葉製油所の完全復旧に取り組んでまいります。

コスモ石油グループの事業活動について──

石油精製・販売業を取り巻く環境は、国内需要の減少、デフレ経済の影響など厳しく、また、コスモ石油グループにおきましては主力である千葉製油所が長期間操業を休止している影響も大きく、安定供給に向けた石油製品調達コストの増加、輸出機会の損失、補修費の計上が重なったことなどにより、2011年の連結最終損益は赤字となりました。

解決策としましては、第4次連結中期経営計画でも掲げております「徹底した合理化」と「変革」の実行であり、石油精製・販売事業の収益基盤を固め、簡素で柔軟な供給体制を作り上げることが重要であると考えております。

この中期計画の進捗状況につきまして、石油開発事業では、引き続き産油国との信頼強化に取り組んだ結果、アブダビでの利権更新と既発見・未開発の新規鉱区を獲得するなど、今後も安定した供給体制を継続することができる見込みとなりました。

石油化学事業は、海外での提携先のヒュンダイオイルバンク（株）との合弁会社であるヒュンダイコスモペトロケミカル（株）におきまして、パラキシレンの生産拡大計画を前倒しで進めたことにより、2012年末には、韓国にて年間生産能力80万tの大規模なパラキシレン製造装置が完成する予定です。

石油精製・販売事業では、バイオETBE製造装置の運転を開始し、環境に配慮した製品の生産を行ったほか、ミックスキシレン製造装置を新たに建設して輸出を開始するなど、付加価値の向上による競争力強化に取り組みました。

環境ビジネス分野では、風力発電事業者である子会社のエコ・パワー（株）により、新たに3つの風力発電サイト（約9万kW）の建設や、油槽所跡地などの遊休地を活用して太陽光パネルを設置するメガソーラー発電事業への参入も検討しております。

世界の80%の原体をコスモグループが供給しており、肥料としての効能が幅広く認知されるようになったALA事業につきましては、肥料だけではなく、サプリメントや化粧品が商品化され、さらに育毛剤などの用途開発も進めております。

このように、厳しい経営環境のなかにありましても成長が期待される「原油開発」「石油化学」「環境ビジネス」につきましては順調に推移しております。

コスモ石油グループがめざすものは、「垂直型の一貫総合エネルギー企業」であり、原油開発から精製、販売、石油化学を展開しながら、環境ビジネスにも注力してまいります。

皆様から信頼される企業であるために──

コスモ石油グループでは、「CSR経営」と「収益基盤の強化」を、事業活動の両輪と位置付け、本業を通じたCSR経営に取り組んでおります。

CSR経営の最重点項目である「安全・人権・環境」への取り組みは、社員一人ひとりが常に「コスモ石油グループ企業行動指針」に立ち帰り、自らの行動に置き換えて実践し続けることで初めて実現できるものであり、これを継続的に実践することこそが本業を通じたCSR経営の推進に他ならないと考えております。

とりわけ現在のコスモ石油グループにとって「安全」は、事業所や社員といった個別の問題ではなく全社レベルの問題としてとらえなければなりません。事故により失った社会からの信頼を回復するのは、並大抵のことではありません。社員一人ひとりが健全な危機感と緊張感を持ち、安全・安定操業を実現することで、信頼の回復を果たすことができます。その結果、安定した適正な収益を確保することができ、社会的責任を果たすことができると考えております。

また、CSR経営におきましては、事業活動を真摯に行った結果生じた利益をさまざまな社会貢献活動・環境保全活動・地域貢献活動を通じて社会に還元することも使命であり、これらを通じて得た信頼を競争力向上につなげていくことも経営者としての責務であると認識しております。そのため、第3次連結中期CSR計画の諸施策を実行してまいります。

コスモ石油グループでは、その取り組みをグローバル基準に則したものとするために、2006年より国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しており、人権・労働基準・環境・腐敗防止など基本原則を尊重したCSR経営に積極的に取り組んでおります。この基本原則は「コスモ石油グループ企業行動指針」にも通じており、社会的責任のある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えております。

2012年度は、第3次連結中期CSR計画の最終年度となりますが、仕上げとしてではなく、まずは信頼の回復に取り組み、さらに足下の重点課題と将来にわたって継続していく活動とを見極め、経営理念の原点に立ち戻り、皆様から評価される活動を一つひとつ積み重ねてまいります。

石油事業の流れとコスモ石油グループの状況

コスモ石油グループは、エネルギーの安定供給を社会に対する責任ととらえ、安全を最優先に、原油の自主開発から、石油製品の製造・輸送・販売にいたるまで、上流から下流までをカバーした石油事業を展開しています。
また、次世代のニーズを見据えた新技術の開発や事業展開を推進しています。

原油調達・開発

コスモ石油グループは、主に中東諸国から原油を輸入しています。また、産油国と協力して原油開発を積極的に進めています。現在UAE（アラブ首長国連邦）とカタールで生産しており、全輸入量に占める自主開発原油の比率は約5%となっています。

◎アブダビ石油（株）
◎カタール石油開発（株）
◎コスモアシュモア石油（株）
○合同石油開発（株）

海上輸送

原油は、遠く離れた中東諸国から日本まで、約20日かけて輸送されます。また、万一の海洋事故にそなえ、タンカーの構造はダブルハル（二重殻構造）となっています。タンカーの共同運航や大型化により、原油輸送の効率化にも取り組んでいます。

原油・石油製品の輸出入

◎英国コスモ石油（株）
◎コスモオイルインターナショナル（株）
◎米国コスモ石油（株）

石油精製・製品製造

コスモ石油グループの各製油所および工場では「安全操業」を基本に、エネルギーの効率的な利用、産業廃棄物の削減、大気・水質などの周辺環境に配慮したさまざまな取り組みを進めています。

コスモ石油（株）　◎コスモ石油ルブリカンツ（株）

石油化学

衣類やペット樹脂など生活用品の原料となるキシレンをはじめとする石油化学製品を製造しています。石油化学製品は、中国をはじめとするアジア地域で今後需要の拡大が見込まれています。

◎コスモ松山石油（株）　○丸善石油化学（株）
◎CMアロマ（株）　○Hyundai Cosmo Petrochem Co.,Ltd.

新規事業・その他事業

環境配慮型事業として、風力発電事業を行っているほか、石油以外の新規事業分野として、ALA（5-アミノレブリン酸）事業に注力しています。また、石油関連施設の工事・リース・保険などの事業も手がけています。

波崎ウインドファーム

風力発電事業

◎エコ・パワー（株）
◎波崎ウインドファーム（株）
◎銚子ウインドファーム（株）
◎段ヶ峰ウインドファーム（株）
◎伊方エコ・パーク（株）
◎（株）稚内ウインドパワー
◎（株）たちかわ風力発電研究所
◎エコ・ワールドくずまき風力発電（株）
◎（株）秋田ウインドパワー研究所
○（株）五島岐宿風力発電研究所

その他事業

◎コスモエンジニアリング（株）
◎（株）コスモトレードアンドサービス
◎コスモビジネスサポート（株）
◎（株）コスモコンピュータセンター
◎（株）コスモ総合研究所
○コスモエコサポート（株）
○コスモ海洋牧場（株）
○トコスエンタプライズ（株）
○北ガスフレアスト函館南（株）
○（株）宣信社
○SUMMIT TRADING CO.L.L.C.
○YAMATO TRADING CO.L.L.C.
○MUSASHI INTERNATIONAL.W.L.L.
○アブダビ興産（株）
○A.D.MARINE.INC
◎コスモ誠和アグリカルチャ
◎克斯莫石化貿易（上海）有限公司
◎COSMO OIL EUROPE B.V.

備　蓄

緊急時にも安定してエネルギーを供給できるよう、民間備蓄として70日分以上の石油を備蓄しています。また、コスモ石油は国家石油備蓄事業にも白島石油備蓄（株）の中核会社として参画しています。

○沖縄石油基地（株）

備蓄基地

KPMGあずさサステナビリティ（株）の保証対象の内容については「保証対象マーク」で表示しています。

国内輸送

製油所で生産された石油製品は、内航タンカーやタンクローリー、鉄道タンク車、パイプラインなどを使って、全国のSSや油槽所、需要家の皆様の元に送られます。輸送手段は、コストや距離、地域性などを考慮し、もっとも安全で効率的なものを選択します。

○東西オイルターミナル(株)
◎北斗興業(株)
◎コスモ海運(株)
◎コスモ陸運(株)
◎コスモペトロサービス(株)
◎コスモテクノ四日市(株)
◎関西コスモ物流(株)
◎坂出コスモ興産(株)
○千葉コスモ港運(株)
○コスモルブサービス(株)
◎四日市エルピージー基地(株)
○堺エルピージー基地(株)

国内販売

大口需要家への直売や特約店への卸売り、SSでの販売を行っています。SS販売では地域特性を重視したマーケティングを実施するとともに、"ココロも満タンに宣言"の活動を展開し、お客様のカーライフをサポートしています。

◎コスモ石油販売(株)
◎コスモプロパティサービス(株)
○桜橋産業(株)
○トコスカーサポート(株)
○(株)ロード資材
○コスモリフォーム(株)
○(株)アムテックス
◎コスモ石油ガス(株)
○東北コスモガス(株)
○広島コスモガス(株)
○(株)長田野ガスセンター

海外販売

石油製品の需要は、日本国内では減少傾向にありますが、世界的には増加しており今後も堅調に推移すると予想されます。コスモ石油グループでは、堅調な需要が見込まれ、かつ環境規制の厳しい北米、南米、オセアニア地域を中心に販売しています。

研究開発

環境に配慮した石油製品の開発や製造技術の高度化に取り組むとともに、新しいエネルギーや環境技術の開発、さらには新規事業の創出をめざしています。

中央研究所

表中マークの読み方

◎‥‥連結子会社
○‥‥持分法適用会社

目　次

トップコミットメント……1

石油事業の流れとコスモ石油グループの状況……3

コスモ石油グループの経営理念・
企業行動指針とCSR経営……5

企業行動指針 第1章
お客様の信頼と満足に応えます……7

企業行動指針 第2章
安全で事故のない企業をめざします……9

企業行動指針 第3章
人を大切にします……11

企業行動指針 第4章
地球環境を大切にします……13

企業行動指針 第5章
社会とのコミュニケーションを大切にします……15

企業行動指針 第6章
誠実な企業であり続けます……17

【特集】
期待が高まる再生可能エネルギー事業の本格展開……19

コスモ石油グループ データ編……21

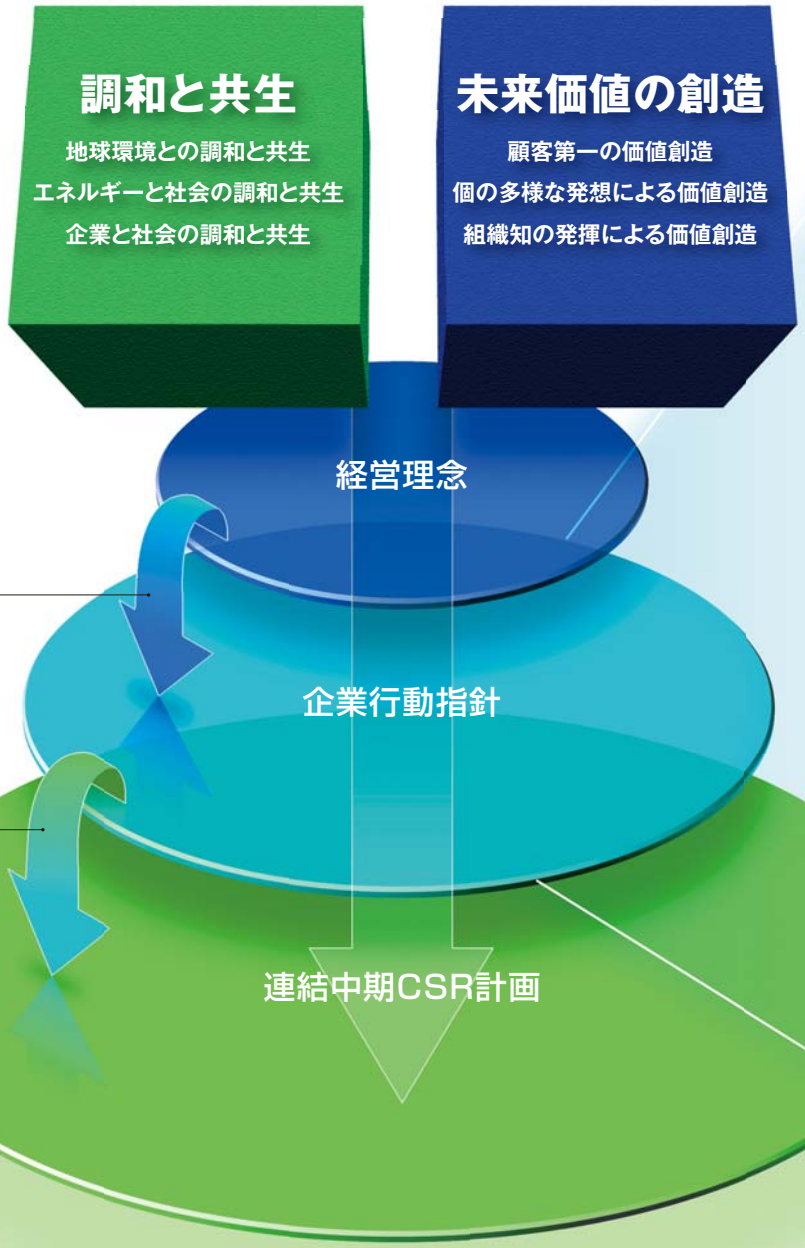
コスモ石油グループの経営理念・企業行動指針とCSR経営

コスモ石油グループでは、経営理念の実現に向けて社員一人ひとりがCSR活動に取り組んでいます。
また、コスモ石油グループの一員として、どのように行動すべきかを判断する際のひとつの拠り所として「コスモ石油グループ企業行動指針」を定め、その実践度の向上を図っています。

コスモ石油グループ経営理念

わたしたちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、
無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざします。

コスモ石油グループは、経営理念として「調和と共生」と「未来価値の創造」を掲げ、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざしています。その経営理念を浸透させ、社員一人ひとりの行動に反映していくため、「コスモ石油グループ企業行動指針」を定めています。



「コスモ石油グループ企業行動指針」を具体的に実践していくために、連結中期経営計画と連動した連結中期CSR計画を策定しています。ステークホルダーから信頼され企業価値の向上につながるよう、グループ一体となり活動を展開しています。

コスモ石油グループ企業行動指針

Chapter 1

お客様の信頼と満足に応えます

1. エネルギーの安定的な供給に努めます
2. お客様に信頼される製品・サービスを開発・提供します

Chapter 2

安全で事故のない企業をめざします

1. 事故および労働災害の防止を徹底します
2. 万一の事故・災害発生時には責任ある行動をとります
3. 安全教育を充実させます

Chapter 3

人を大切にします

1. 一人ひとり、個人を尊重します
2. 明るく働きやすい職場づくりに取り組みます

Chapter 4

地球環境を大切にします

1. 地球環境のため、すべきことを実行します
2. 地球環境のため、何ができるか考え行動します

Chapter 5

社会とのコミュニケーションを大切にします

1. 地域社会の発展に向けて行動します
2. 私たちをより知っていただくために伝えていきます

Chapter 6

誠実な企業であり続けます

1. 社会の一員として良識ある行動をとります
2. 会社財産を大切にします
3. 誠実な取引を行います
4. 情報を正しく取り扱います

Chapter 1

お客様の信頼と満足に応えます

コスモ石油グループの最大の社会的責任は、日本の経済活動と社会を支えるエネルギーを安定的に供給することです。原油の安定的な調達にあたっては、産油国との良好な関係を永年にわたり築いてきました。一方で、お客様から信頼いただける製品を上質なサービスとともに提供していくために、サービスステーション(以下SS)におけるお客様満足度の向上を追求し続けています。

「サンキュー表彰」受賞SS
お客様一人ひとりのニーズに敏感なSSでありたい。
コスモ石油販売(株)東京カンパニー
セルフ&カーケアステーション八王子堀之内
店長 藤原 正恒
カーケアアドバイザー 深澤 豊

通常、買い物などへ行くついでにSSに寄るというお客様が多いと思います。しかし私たちは、このSSを目的にきてもらえるようにしたいという思いが強くありました。セルフサービスのため、全員には声をおかけできませんが、サポートを必要とするお客様もいらっしゃいますので、その素ぶりを見逃さないよう心がけています。私たちがめざすものは、難しくいえば、サポートが必要なのか、逆に急いでいるのか、お客様ごとのニーズを見極める目と人間力を磨くことです。簡単にいいかえれば、当たり前のことを当たり前にできるSSスタッフでありたいと思っています。

今回、給油口と逆側につけてしまったお客様の車に傷がつかないようホースを手で持ったことで、お褒めの言葉が寄せられ「サンキュー表彰」を受賞しましたが、私たちには当たり前のサービスです。しかし、そのお客様のニーズを的確にとらえていた。それが、こうした結果につながったのではないかと考えています。

コスモ石油
販売部
吉岡 秀晃

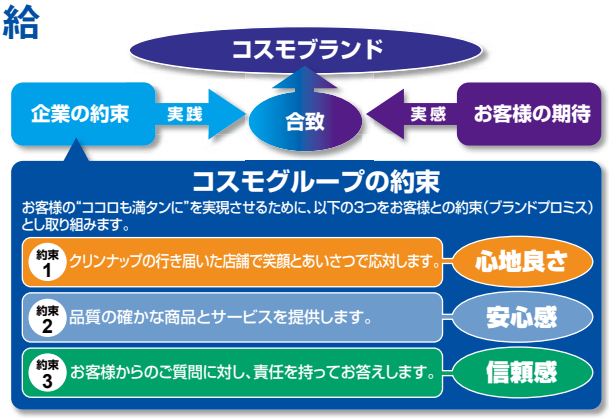
2011年度から「サンキュー表彰」を新設したのは、カスタマーセンターに寄せられた「ぜひSSの人を褒めてあげてください」というお客様の声がきっかけでした。お客様のココロを満タンにしたサービス事例を表彰し、全国のSSで共有することで、我々がめざす「ココロも満タンに」というスローガンにまた一歩近づくのではないかと考えたからです。2011年の表彰は、34SSで36事例ですが、マニュアル的な対応を一歩超えたサービスであったことが共通しています。

エネルギーを安定して、お客様に喜ばれるサービスとともにお届けすることがコスモ石油グループにとってもっとも大切なことです。

お客様満足の追求とエネルギーの安定供給

エネルギー供給の一翼を担うコスモ石油グループ最大の使命は、社会の信頼に応える製品・サービスを、原油調達・精製から物流・販売までのサプライチェーン全体で安定的かつ安全・確実にお届けすることであると心に刻み、「"ココロも満タンに"宣言」活動を通じて、お客様に「心地良さ」「安心感」「信頼感」を実感していただくための取り組みを続けています。

2011年度は、お客様の多様なニーズに応えるべく「商品知識力」「ソリューション提案力」「技術力」「アフターサービス」の4分野に注力し、「コスモ石油」が、お客様に選ばれ続けるブランドであるよう取り組みました。



東日本大震災を乗り越えて

東日本大震災では、多くのSSや出荷施設が被災し、東北地方を中心に石油製品の供給能力が一時的に低下しましたが、特に被災地においてニーズの高い、冬場の暖房用燃料の安定供給に努めました。また、甚大な被害を受けた地域では「燃料・保険・メンテナンス付き車両」の無償貸与、荷物の運搬、地元の皆様や復興ボランティアの移動支援など、各自治体のニーズにあった車両の提供を行ってきました。引き続き、被災地の復興および石油製品の安定供給に努めていきます。

石油製品の信頼確保

コスモ石油本社内に設置した「品質保証委員会」*1で策定したグループ共通の品質保証方針のもと、全社一体となった品質保証体制を確立しています。事故・トラブルの撲滅に向けた不具合の未然防止活動を推進し、製品の品質向上と信頼性の確保に取り組みました。

品質トラブル発生時の対応としては、トラブル発生時の連絡・対応フローをマニュアルとして整備するとともに携帯用の冊子(品質トラブル連絡表)を作成して迅速に対応できるように運用しています。

2011年度は、東日本大震災で被災した千葉製油所の生産・供給体制復旧に向け、適切な品質管理を重点項目に全社一丸となって取り組みました。また、被災した油槽所やSSでは、設備の点検後、タンクに残っていた製品の品質確認を改めて実施したうえで出荷・販売を再開しました。

＊1 品質保証委員会は、CSR推進委員会の実行組織です。詳しくはP25の内部統制体制図をご参照ください。

品質トラブル連絡表

リスクマネジメントの取り組み状況

コスモ石油グループでは、CSR推進委員会の実行組織として、「リスクマネジメント委員会」*2を設置し、(1)リスクの洗い出し、(2)整理、(3)対策検討、(4)実施、(5)モニタリング評価のサイクルを回す活動を実施しています。

東日本大震災後、地震対応の総括を実施し、すでに策定していた首都直下型地震版BCPマニュアルの見直しに加え、懸念されている東海・東南海・南海地震版BCPマニュアルの策定を新たに進めています。なお、2012年3月12日に、東海・東南海・南海地震の被害想定シナリオにもとづき、5回目となるBCP総合訓練を実施しました。

＊2 詳しくはP25の内部統制体制図をご参照ください。

Chapter 2

安全で事故のない企業をめざします

「安全」な事業環境を構築するためには、事故を未然に防ぐ技術および体制の整備はもちろんのこと、現場を支える社員一人ひとりが高い安全意識を持つことが必要です。安心して働ける事業環境を継続するため、コスモ石油グループは日々の「安全」を追求しています。私たちは常に安全を最優先で意識し、事故をゼロにする取り組みを積み重ねていくことで、誰もが「安心」できる社会を築いていきたいと考えています。

安全を守る意識をボトムアップで高めていくために。

コスモ石油　四日市製油所
教育訓練センター
千賀 葉二

コスモ石油は、安全操業の基盤として人材育成を重視しています。安全を守る最後の砦は、「人」であると考えているからです。教育訓練センターは、石油生産設備の操作技術の習得と不具合が発生した時の対処法を学ぶために、1994年に設立されました。

訓練の内容は、各装置のシミュレーターによる研修のほか、「カットモデル」と呼んでいる装置のミニチェアで、機械の構造についても学ぶことができます。主な目的は、通常時の操作技術の習得ですが、昨年の東日本大震災を受けて「エマージェンシー訓練」という異常発生時の対処を学ぶことにも力を入れています。

教育訓練センターの役割は、「ものづくり」の現場の視点に立って運転員の安全意識や操作技術向上のための支援を行うことです。日常的に発生する事象については、通常の教育訓練で対応できますが、製油所の安全をさらに高めるためには、非定常、未経験といったOJTでは学べない事態に対しても、思考力や判断力を育み、一人ひとりが考えて行動することが重要だと考えています。

訓練生のコメント

シミュレーターは、実機と操作方法やアラームの作動まで同じなので、操作幅と装置、性状変化の度合いが確実につかめるようになり、シミュレーターで訓練を受けたことが実機を運転する際の自信につながります。訓練を受けたか受けていないかで、実際の操作に臨む際の入りやすさがまるで違ってきます。例えばシミュレーター上でも、正しい操作ができた時は大きな達成感があり、自らの成長を実感することができます。

事故を未然に防ぐためのさまざまな工夫と万が一の事態発生時の確実なそなえが安全と安心につながっていきます。

製油所における「チェンジ21活動」の推進

各製油所およびコスモ松山石油（株）では、「事故ゼロを達成し、それを維持する」ことを最終目標に掲げ「チェンジ21活動*1」と称し、設備の保全レベルの更なる向上と安全管理体制の強化に取り組んでいます。その結果、2011年の「不安全不具合*2」の発生件数は111件となり、2010年の127件*3から約13％の減少となりました。

総合安全対策会議の様子

今後も2011年3月11日の東日本大震災を契機として、千葉製油所で発生したLPGタンク付近における火災・爆発事故、および2012年6月28日に千葉製油所で発生した屋外タンクからのアスファルト漏洩事故の教訓と反省を踏まえ、安全操業・安定供給を達成すべく、課題を着実に克服し安全文化の醸成に努めます。

＊1「チェンジ21活動」を含め連結中期安全計画においては、対象期間を暦年（1月から12月）としています。
＊2 コスモ石油グループでは、石油コンビナート等災害防止法に定める異常現象およびこれにいたらないトラブル・不具合、労働災害などを「不安全不具合」と定義しています。
＊3 2011年2月より「不安全不具合」の定義を見直し、対象を拡大しました。そのため、昨年のコーポレートレポートでは、2010年実績を「99件」と報告しましたが、新しい基準で評価した場合、2010年実績は「127件」となります。

防災訓練の実施

コスモ石油の本社および各製油所では防災訓練を毎年実施しています。2011年度は、東日本大震災の教訓を踏まえた防災訓練を実施しました。東日本大震災時に火災が発生した千葉製油所では、関係行政の方々や合同事業所である丸善石油化学（株）にもご参加いただき、行政および近隣の会社への連絡体制の確認を行いました。

また、発生が懸念されている東南海・南海地震において被災が想定される四日市、堺、坂出製油所では、津波警報の発令を想定した訓練を実施しました。

コスモ石油グループは、二次災害を含む被害を最小限にとどめ、立地地域の方々をはじめ、社会の皆様から信頼され、安心していただける企業であるよう、今後も防災訓練を実施していきます。

高所放水車による消火訓練

SS工事にかかわる協力会社を集め、安全フォーラムを開催

（株）コスモトレードアンドサービス建築事業部ではコスモ石油のSSハード政策にもとづいて、SSメンテナンス工事などに従事しており、毎年3月、協力会社が一堂に会した安全フォーラムを開催し、関係者全員の安全意識向上を図っています。

2011年度の安全フォーラムでは、メンテナンス・塗装・解体・土壌環境の各分野の協力会社より、安全性向上への工夫や改善策などを発表していただきました。また、計量機メーカーから東日本大震災におけるSS被災状況と復旧工事の見通しを発表いただき、全社体制で震災からの復興に全力を注いでいくこと、そして日常のSS工事での安全性向上に努めることを再認識し、決意を新たにしました。*1 SS工事現場では、建築技術者による安全パトロールが工事の節目ごとに行われており、これが現場の安全性向上に大きく寄与しました。コスモブランド向上をめざし、無事故無災害を継続していきます。

手動式緊急用可搬式ポンプ／SS向け緊急用発電機

可搬式ポンプによる給油*2

＊1 SSにおいて停電時や配管破損の恐れがある場合でも、緊急用可搬式ポンプによる緊急車両への迅速な給油を行うことができたなど、震災時の初動対応を紹介し、非常時の燃料供給方法についても情報共有を行いました。
＊2 車上からの給油は震災時における特例給油であり、消防立会いのもと給油しています。

Chapter 3

人を大切にします

コスモ石油グループは、社員の力が事業活動の原動力と考えています。お客様とのコミュニケーション、そして環境にやさしく社会に喜ばれる製品・サービスを提供する担い手となるのは、すべて一人ひとりの社員です。コスモ石油グループは、人を大切にする企業であるために、明るく働きやすい職場づくりを推進し、適性・能力にあった公正公平な評価はもちろんのこと、ワーク・ライフ・バランスに配慮した新しい働き方にも取り組んでいます。

ボランティア休暇制度を利用し、震災復興に協力しました。

コスモ石油　坂出製油所
製造2課
石橋 勇人

昨年9月1日から16日間、ボランティア休暇制度を利用して、宮城県石巻市の震災復興ボランティアに参加しました。半月ほど仕事を休むことになりましたが、東日本大震災を機にボランティア休暇の取得日数の上限が増えたこともあり、3勤務4.5日分をボランティア休暇にあてることができました。

震災復興ボランティアに参加したのは、頭で考えるより、被災地の状況を自分の目で見て、体験して初めて気付くことも多いはずだと考えたためです。衝撃を受けたのは、地元の方と話した際に「東北は大きな被害を受けたけど、他の地域の人は地震に対して何か備えをしているんだろうか？」と逆に心配された時です。ボランティアで役に立とうとばかり考えていましたが、自分自身いざという時の備えができているのかと顧みて、申し訳ない気持ちになりました。

だからこそ、この経験は、仕事上の危険に対する意識を見直す機会になりました。今回のボランティアで得た経験を、坂出製油所全体で防災意識を高めることにも役立てたいと思います。

コスモ石油
坂出製油所
製造2課　課長
漆川　司

東日本大震災の被災地の現状には誰もが心を痛めていて、ボランティアに行きたい気持ちがあると思います。石橋君の行動力をうらやましく感じるとともに、元気に戻ってきてほしいと願っていました。ボランティア休暇から戻ってきて以降、明らかに意識が変わったのは、見ていてわかります。今後もボランティア休暇を取りたいと申し出てくる社員がいれば快く送り出したいですし、ほかでは得られないものを吸収して、自らの成長につなげて欲しいですね。

社員一人ひとりの最も良い働き方をお互いのコミュニケーションを深めながら労使一体となって追求しています。

職場と家庭の両立支援

第3次連結中期人権／人事計画では、「職場と家庭の両立支援」の重点テーマとして「育児・介護休職推進、余暇活動支援」を定め、あわせて支援を充実させるためのさまざまな制度の整備に力を入れています。余暇活動支援では、中期計画で目標値として有給休暇取得率80%以上を掲げ、全社員の休暇取得拡大をめざしています。2011年度は86.0%と目標値はクリアしましたが前年度（86.2%）より減少しました。一方で、グループ会社の有給休暇取得率については対象会社18社中、11社が前年より改善しました。

また、次世代育成支援策として「第4期一般事業主行動計画（2011～2012年度）*1」を厚生労働省に提出しました。法改正により2011年4月から対象となった関係会社の中では、（株）コスモトレードアンドサービスにおいて育児休職取得などで実績がでています。

＊1 一般事業主行動計画：労働者の子育て支援策や労働条件の整備策について、期間、目標、実施時期を定めた計画。

（株）コスモトレードアンドサービス育児休職取得者の声

育児施設利用補助制度や短時間勤務など、支援制度が充実していたこともあり、育児休職の取得に迷いはありませんでした。復帰にあたっても、担当業務に遅滞なく就くことができるように体制を整えていただいた上、1年以上お休みをいただいて不安な私に「おかえり」と言葉をかけていただいた時は、本当に復帰して良かったと思いました。会社や皆様の温かい支援のおかげで、母として、また社会人として充実した生活を送ることができています。

（株）コスモトレードアンドサービス
保険・リース部
五十嵐 沙織

出産後の仕事については悩みましたが、仕事を続けたい思いが強かったので育児休職のことを調べて復職を決心しました。育児休職を取得したおかげで、子どもの成長を見守ることができ、ふれあいの時間がたっぷり持てました。休職の前と後で所属長が変わっていましたが、問題なく親切に対応していただきました。復職後、仕事を続けていくには、家族、先輩など皆様の支えがないと一人では何もできないとわかり、まわりの方には本当に感謝しています。

（株）コスモトレードアンドサービス
福岡支店
国分 美由紀

多様性尊重・機会均等

「公正な雇用の継続」をテーマとし、「障がい者雇用率の維持向上」を目標に取り組んだ結果、2011年度の障がい者雇用率は2.19%と法定雇用率（1.8%以上）を維持しました。2013年度より法改正が実施され、法定雇用率が2.0%に引き上げられますが、今後も多様な人材がそれぞれの能力を存分に発揮できる職場環境の構築をめざし、施策を展開していくことで、法改正にも対応していきます。

聴覚障がい学生のキャリア支援DVD製作に協力

コスモビジネスサポート（株）ペイロール事業部に所属し、自らも聴覚に障がいを持つ社員（森﨑めぐみさん）が、「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク」が作成した教材DVDに、聴覚障がいを持つ社会人が企業で活躍するモデルケースとして出演しました。これは、森﨑さんが入社当初から積極的に周囲とコミュニケーションを図ってきたこと、またリーダーとして職場をまとめた経験があることなどが評価されたことによるものです。

コスモビジネスサポート（株）
ペイロール事業部
森﨑 めぐみ

DVDを見た方からは、障がいに関係なく、多くの人に見せたいという声が届きました。それはこのDVDがコミュニケーションの本質を含めた内容に仕上がっているためです。聴覚障がい学生だけでなく、あらゆる方の励み・刺激となり、役立っていることを嬉しく感じています。また、上司・先輩方が長年かけて得たことを惜しむことなく伝授してくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。これを独り占めしてはもったいないと思っていたので、今回の出演は貴重な恩返しの機会となりました。

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan） 公式サイト http://www.pepnet-j.com/

Chapter 4

地球環境を大切にします

私たちが皆様にお届けしている「石油」は、現代の生活に欠かせない貴重なエネルギーです。しかし一方で、その使用時には地球環境に対し少なからず負荷を与えていることもまた事実です。コスモ石油グループは、環境にやさしい石油製品の開発や提供に取り組む一方で、再生可能エネルギーの導入や生物多様性の保全など、かけがえのない地球環境を次の世代へ残すためのさまざまな活動に力を入れています。

私たちにとって
いちばん身近な緑を、
もっと増やしたい。

コスモ誠和アグリカルチャ（株）
ALA製品事業部※
坪内 伸悟

石油学会 技術進歩賞を受賞

受賞の盾を受け取る
コスモ石油中央研究所 舩田社員

コスモ石油のALA製造技術は、「平成23年度 石油学会 技術進歩賞」を受賞しました。技術進歩賞は、石油・天然ガス・石油化学工業などにおいて技術開発または改良を実施し、優れた業績をあげた企業に対して贈られるものです。微生物による発酵技術を活用した生産技術の開発により従来の方法に比べてALAの量産化・低コスト化を実現したこと、ALAの植物分野における成長促進や耐塩性向上といった有用な効果を発見したことなどが高く評価され受賞にいたりました。

昨年の震災と原発事故を機に、いざという時の食料の確保ができ、安全性も高いことから自宅の庭やベランダなどで野菜栽培をされる方が増えているように感じます。また節電意識の高まりから「緑のカーテン」としてゴーヤやアサガオなどの栽培を始める方も増えてきました。

とても身近で簡単に始められる家庭園芸ですが、建物の向きによっては日当たりが悪いなど必ずしも植物の生育に適さない環境も多く、途中で断念されるケースもあると聞きます。コスモ石油が開発したALA（5-アミノレブリン酸）入りの液体肥料「ペンタガーデン」シリーズは、植物の光合成能力を高めたり、根からの栄養吸収を促進する効果があるため、今までは栽培できなかった日当たりが悪いベランダや室内菜園でも植物が元気に育つとご好評をいただいています。

ALAは、動植物の生体内にも含まれる天然アミノ酸で、醤油などと同じく光合成細菌という微生物を用いた自然の発酵法でつくられています。

地球環境に対する消費者の意識が高まっている一方で、都市化や少子高齢化の進行にあわせて園芸人口も減少し、私たちにとってもっとも身近な緑が減ってしまうことが危惧されています。ベランダや室内での植物栽培は、初めての人でも手軽に始められるものですので、私たちのALA製品を通じて、長く園芸を続ける人を一人でも多く増やすことが私の目標です。

※現所属：コスモ石油　販売部

私たちの身近な緑を育てることからグローバル規模の環境保全への貢献までコスモ石油のチャレンジは続いています。

製油所における省エネルギーを推進

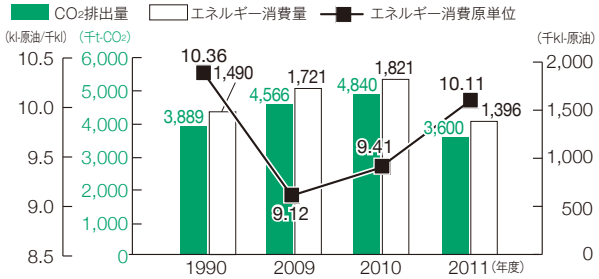
コスモ石油グループは、原油の生産から製品輸送・貯蔵におけるさまざまな段階でCO_2を排出していますが、そのうち約6割を精製部門が占めます。そのためハード面（高効率器の導入）、ソフト面（運転効率の改善）の両面から、省エネルギーに努めています。

2011年度のCO_2削減は、樹脂コーティングによるポンプ効率の向上などハード対策が寄与したほか、運転条件の見直しや蒸気使用量の低減などソフト面での対策にも注力しました。「第3次連結中期環境計画」では、2011年度までの製油所におけるCO_2削減目標を年間21,900トン（原油換算で8,430kl相当）としていましたが、最終実績で年間37,900トン（原油換算で14,490kl相当）と目標を上回りました。

2011年度は千葉製油所が長期間にわたり生産機能を停止したため、前年度との比較で、製油所のエネルギー消費量とCO_2排出量の総量が減少し、エネルギー原単位の数値が悪化しました。

今後も、エネルギー企業ならではの発想で省エネルギー施策の新しい取り組みと確実な実行、既存の改善策の継続に取り組んでいきます。

製油所のエネルギー消費量とCO_2排出量



※エネルギー消費原単位とは、製油所の総エネルギー消費量を精製技術の複雑度を考慮した原油換算処理量で割った値で、単位は、kl-原油/千klで表します。総エネルギー消費量は、熱や電気などの各種エネルギーの使用量を原油換算し、単位はkl-原油です。

※2006年度からCO_2の算定方法を「地球温暖化対策の推進に関する法律」に定める方法に変更しました。

※当該年度のCO_2排出量は前年度の電力のCO_2排出係数で算出しています。

※図に示したほかに、触媒再生塔から一酸化二窒素（N_2O）が14千t -CO_2eq発生しています（2011年度）。

エネルギー政策とCSR・環境経営

環境経済学の草分け的存在であり、コスモ石油エコカード基金*1の評議員でもある京都大学大学院・植田和弘教授にCSR・環境経営のあり方について伺いました。

（聞き手）
コスモ石油　代表取締役副社長
コスモ石油エコカード基金理事長
森川 桂造　（2012年3月時点）

森川　コスモ石油は「いかに社会や環境、人と共生し調和するか」を重視し、「業績」と「CSR」を経営の両輪としてきました。その中で取り組み始めたのが「コスモ石油エコカード基金」です。

植田　エコカード基金は素晴らしい取り組みです。しかし、活動の意味をより明確にする必要があります。CSRを経営と統合的に考えることが大切だと思うのです。

森川　事業そのものにCSR的な考えを組み込むということですね。

植田　そうですね。本業自体にCSR的な意味を持たせることが大切だと思います。

森川　エネルギー企業として、本業を通じ持続可能な社会を構築するためには、多様なエネルギーを組み合わせ、環境と共生していく必要があります。

植田　石油のように再生できない資源を大事に使いながら、その間に再生可能エネルギーの力をつけて、移行をスムーズにしていく。それが大きな方向性ですね。

森川　再生可能エネルギーについては、2010年3月にエコ・パワー（株）を子会社化し、風力発電事業に本格参入しました。

植田　再生可能エネルギーに関しては、日本は遅れをとったといわざるを得ませんが、仕組みを変えることで大きな2つの変化が期待されます。地域経済のバランスのとれた発展と新しい産業技術基盤の発展が期待できることです。

森川　確かに再生可能エネルギーに関する技術発展に期待できることは多いと思います。

植田　コスモ石油の社員が一丸となって環境保全に取り組むことは、社員が地球市民としての意識を持つことにつながると思いますので、今後も期待しています。

※この対談は、2012年3月に開催しており、森川は2012年6月より社長に就任しています。

＊1 詳しくはP16のコスモ石油エコカード基金をご参照ください。

Chapter 5

社会とのコミュニケーションを大切にします

私たちコスモ石油グループは、社会から信頼される企業であるために皆様とのコミュニケーションを大切にしています。フェイス･トゥ･フェイスでお互いの笑顔が確認できる、そんな実のあるコミュニケーションであるよう、社員一人ひとりが積極的に社会貢献活動に参加できる企業風土を醸成し、私たちの取り組みをもっと社会に知っていただくため、正確な情報発信にも努めています。

「わくわく探検隊」を息の長い活動にするために、私もがんばります。

コスモ石油ルブリカンツ（株）
直売部
鈴木 杏奈

コスモわくわく探検隊
交通遺児の小学生を対象とした自然体験プログラム。車社会の一翼を担うコスモ石油の社会貢献活動として、1993年より毎年1回開催。

昨年、一昨年と2年連続で、交通遺児の小学生を対象とした自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊」に社内ボランティアとして参加しました。

子どもたちは、初めてのキャンプにも臆することなく元気いっぱい、自然の中で思い切り遊んで好奇心が刺激され、大人には見えないものを見ている、そんな様子でした。私たちボランティアは、参加者全員が楽しめるよう班のリーダーとして引率して、子どもたちとコミュニケーションを深めました。

キャンプでは、子どもたちの健康や安全、心の状態などに気を配らなくてはなりません。そのために私は、大人目線ではなく、常に子どもたちと同じ目線でいることを心がけました。

自分としても有意義に過ごした「わくわく探検隊」ですが、コスモ石油グループが社会の中で役割を果たし利益をあげなければ、この活動を続けることはできません。私自身「あの子どもたちのためにも、足下の業務を確実にこなして少しでも会社に貢献したい」と再認識する機会になりました。

コスモ石油ルブリカンツ（株）
直売部 グループ長※
古田 一穂

鈴木さんは、仕事をそつなくこなす一方、他人の気持ちを重んじることができる人ですので、「わくわく探検隊」は、相性のいい活動だと思います。仕事以外での成長も期待していますので、こうしたボランティア活動への参加は上司としても歓迎です。私としても、企業が社会に積極的にかかわることを当然であると考えていますし、コスモ石油グループとして、他社にはない独創的な社会貢献活動が多くある状況を意義深いことだと思っています。

※現所属：コスモ石油ルブリカンツ（株）東日本支店

一過性の取り組みで終わることなく末永く、社会の皆様と企業がともに歩めるような社会貢献活動を展開していきます。

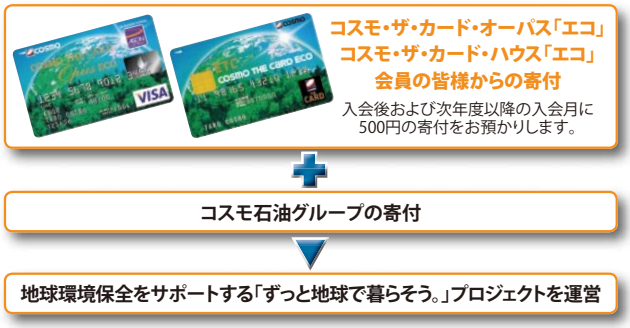
コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI

コスモ石油は、JFN（全国FM放送協議会）加盟38社とコラボレーションし、2001年より、地球環境の保護と保全を呼びかけていく活動「コスモ アースコンシャス アクト」を展開しています。この活動の一環として、海・山・川・湖・公園などで自然を楽しみながら清掃を行う「クリーン・キャンペーン」を全国展開しており、これまでの11年間で述べ436ヵ所を清掃し、参加者は17万人を超えています。なかでも、毎年夏に実施している「コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI」は、シンボル的なイベントとして注目度も高く、今年もアルピニストの野口健さんをゲストに迎え、参加者185名が2日間で45Lのごみ袋558個分のごみを回収しました。

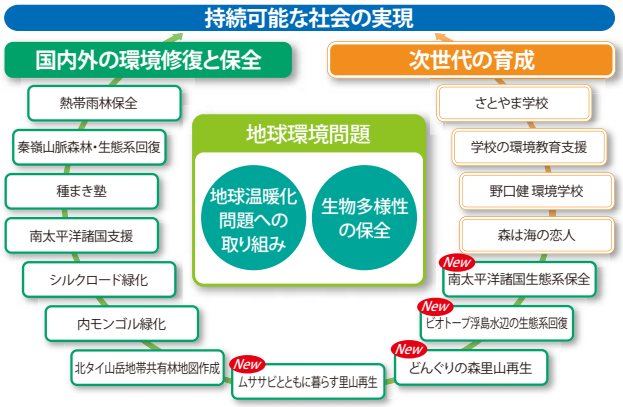
コスモ石油エコカード基金

コスモ石油エコカード基金では、かけがえのない地球環境を次世代を生きる子どもたちに残すため、カード会員の皆様からのご協力をもとに「ずっと地球で暮らそう」プロジェクトを展開しています。約8万人の会員の皆様に支えられ、2011年度で11年目に入りました。会員の皆様からお預かりした大切な寄付金を環境問題の解決のために活用し、「環境修復と保全」「次世代育成」をテーマとした環境保全活動を支援してまいります。2011年度は、新たに「生物多様性」をテーマに募集・選考を実施し4件のプロジェクトを追加しました。さらに東日本大震災の発生を受けて、東北の地域再生に貢献するプロジェクトの支援も決定しました。詳しい実施内容については「コスモ石油エコカード基金活動報告書2012」で報告しています。

コスモ石油エコカード基金の仕組み



2011年度のプロジェクト



関連情報 コスモ石油 環境活動
http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/

里山を自然のままの姿で保存する「コスモの森」

コスモ石油は、全国の事業所周辺の里山を「コスモの森」として自治体より借り受け、里山を整備・保全し、次世代に残す活動に取り組んでいます。

堺製油所では2010年度より、堺市の友好都市である奈良県東吉野村が行う「東吉野村美緑の森づくり事業実施要領」にもとづく事業第1号として、「コスモの森」里山保全活動を展開しており、6月と10月には、コスモ石油社員とその家族が参加して、里山の草刈りや間伐作業を行いました。千葉製油所ではコスモの森を活用した環境教育を地元の小学生を対象に行う場を提供しています。

またグループ会社のコスモ松山石油（株）でも、愛媛県の推進する県民参加の森林づくり活動に賛同する形で、2007年4月より「コスモの森」活動に取り組んできました。2011年度も6月と10月の2回、コスモ松山石油の社員とOBが参加して里山の保全活動に努めました。

「コスモの森」里山保全活動

Chapter 6

誠実な企業であり続けます

コスモ石油グループが考える「誠実」とは、法を守るといった型どおりのものだけではなく、人の気持ちとして理解される社会と心の通った企業活動を行うこと、そこから「信頼」を勝ち取っていくことにほかなりません。そのために、ネガティブなものを含めすべての情報を開示し、透明性の高い経営を心がけ、社員一人ひとりの自覚を促す教育と施策を徹底していきます。

システムと人。その両輪で情報セキュリティの強化を進めています。

コスモ石油
情報システム部
渡邉 和也

企業行動指針

コスモ石油グループ企業行動指針では、経営理念実現に向けて取り組むべきテーマを整理し、各章毎に以下のような項目を掲げ、社会からの要請や使命を明示しています。

第6章 誠実な企業であり続けます

1	社会の一員として良識ある行動をとります
2	会社財産を大切にします
3	誠実な取引を行います
4	情報を正しく取り扱います

現在のように会社業務が高度にＩＴ化されると、情報システムを使わない部署はないといっても過言ではありません。基礎的な会社データから受発注データ、技術関連のデータ、カード会員の方の個人情報まで、ありとあらゆる膨大な情報が情報システムに蓄積されています。さらにそのデータの多くは極めて重要な情報であるため、情報セキュリティには細心の注意が欠かせません。

リスクは大きく分けて2つあり、ひとつは情報システムの脆弱性に対する攻撃で、もうひとつは、情報システムを利用する「人」の脆弱性です。近年マスコミなどでも話題になっている組織的な標的型攻撃など、攻撃手法の高度化により、リスクは日々変化しています。セキュリティ対策に終わりはなく、他社への攻撃事例や最新技術動向などを常に情報収集しながら、対策を検討・実行しています。

また、利便性をある程度確保しつつセキュリティ対策を行う必要がありますが、利用者の意識が低い場合は、大きなリスクが顕在化します。例えば、USBメモリなどの外部記録媒体は、業務を行う上で必要なもののみ許可していますが、不用意に私物の機器（スマートフォンなど）を会社パソコンに接続してしまい、新種のウイルスに感染するなど、システム側では防げない事案も発生しています。したがって、意識啓発として、新入社員研修や企業倫理研修での教育、「情報システム利用要領ハンドブック」の作成・周知、CWP（イントラネット：企業内ネットワーク）での注意喚起、システム利用状況の調査・改善指導など今後も状況に応じ、継続的な対応を実施します。

社会から信頼を勝ち取っていくために常に自らを振り返り、現状に満足することなく人と組織の強化・改善を図っています。

「CSRに関する現状調査」と「組合員意識調査」

コスモ石油グループでは、2年ごとに実施している「CSRに関する現状調査」に加え、コスモ石油労働組合（組合員2,400名／2011年7月末現在）においても「組合員意識調査」を実施しています。「組合員意識調査」は「CSRに関する現状調査」と同様に匿名で実施され、調査票の回収・分析を外部機関に委ねており、93.6%という高い回答率となっています。

これらの調査は、コスモ石油グループ社員の満足度を社員自らが知り、高めると同時に、CSR経営に関する客観的な評価も目的にしていることから、調査結果を労使で共有しながら複数の視点で誠実に議論をしています。これにより、社員一人ひとりの仕事および会社に対する意識や企業倫理の浸透状況を確認し、CSR経営に関するリスクの低減につなげています。

2つの調査をもとにCSR経営の推進・充実、リスクの低減を実現することはもちろん、社員同士の円滑なコミュニケーション、教育・研修の充実、コンプライアンスに関するわかりやすい情報提供などの改善策を検討・実施しています。

「組合員意識調査」で寄せられた主な意見（抜粋）

- コンプライアンスは世代交代の問題ともかかわりが深いと思う。若い人の方がコンプライアンスについて意識が強い。今のままコンプライアンスについて教育を続ければ、もっと良くなっていくと思う。（製油所 男性）
- ルールの教育があまりなく、悪気なくルールを逸脱していることがあると思う。徹底的に教育する時間をつくるべきだと思う。（製油所 女性）
- コンプライアンスに関する研修をより充実させるべきだと思う。コンプライアンスは重要だと思うが、具体的に何に気を付ければいいのか知らなければ、行動のしようがない。（本社 男性）

企業倫理研修会の実施

コスモ石油グループでは、企業倫理への認識を高いレベルで維持するため、グループ社員を対象とした企業倫理研修を毎年実施しています。職務に応じた知識を取得する階層別の研修に加え、グループ会社社長が主催する関連会社ごとのテーマに沿った研修も行っています。

2011年度の企業倫理研修では、具体的事例を交えながら、「情報システムの適正利用」についてさらなる周知徹底を図り、情報セキュリティに対する社員一人ひとりの意識を高めました。また、昨年より新たに開始した技術者倫理研修では「安全管理・環境管理の不具合」をテーマに掲げ、法令遵守の再徹底を図りました。ほかにも「企業倫理相談窓口（ヘルプライン）の仕組み」「独占禁止法および個人情報保護」「健康管理とメンタルヘルス」などの個別テーマについても啓発を実施しました。

研修の受講機会を増やしたことなどにより、2011年度の参加者数は、グループ全体で2010年度から179名増加し、延べ3,790名となりました。研修後、参加者にアンケートを実施しており、その結果は、翌年以降の研修企画などに活用していく予定です。

コスモ松山石油（株）松山工場での研修の様子

企業倫理相談窓口（ヘルプライン）

コスモ石油グループの業務における法令および倫理上の問題を相談・通報できる窓口を社内と社外に設置しています。

社内は、企業倫理推進室内に企業倫理相談窓口を設け、社外は、外部専門家へ直接相談できる窓口を設置し、相談者の不利益にならないよう匿名性を確保しています。2011年度はあわせて2件の相談が寄せられています。

また、人事部門内には、セクシュアルハラスメントおよびパワーハラスメントに関する相談窓口も設けています。

青森県 岩屋ウィンドパーク

特　集

期待が高まる 再生可能エネルギー事業の本格展開

再生可能エネルギーは、環境負荷のないクリーンエネルギーであるとともに海外の政治情勢などに影響されにくい純国産のエネルギー源であり、さらに資源として枯渇の不安がないなど、多くのメリットを持っています。コスモ石油グループは、エネルギー安定供給の観点から風力発電を軸とした再生可能エネルギーの事業拡大に取り組んでいます。

風力発電事業の推進による エネルギー調達のベストミックス

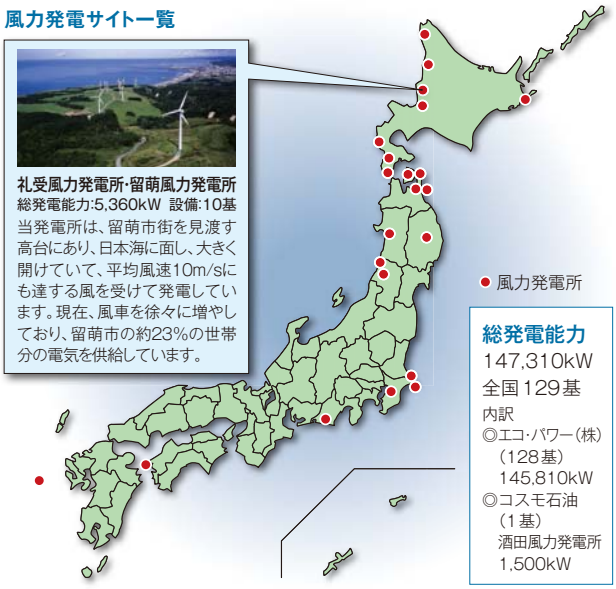
コスモ石油グループでは、世界規模で進む持続可能なエネルギー社会の構築とゼロエミッション社会の実現、また日本国内における震災以降のエネルギー政策の見直しを受け、総合エネルギー企業としての責任を果たすべく、エネルギー調達の多角化（ベストミックス）を進めています。

中でも再生可能エネルギーは、震災後、従来のクリーンエネルギーとしての役割以上に将来の主力電源として期待が高まってきています。コスモ石油は、2010年より風力発電事業で実績のあるエコ・パワー（株）をグループの一員に迎え、風力発電事業に本格参入しました。

資源として枯渇しないことが最大の魅力である風力発電ですが、風況やメンテナンスなどのため稼働停止時間が多いなどの課題があり、稼働率の向上こそが事業安定化の最大のポイントであると考えています。そのため、この2年の間、エコ・パワー（株）で稼働率アップに向けメンテナンスの効率化に取り組んだ結果、風車の稼働率が飛躍的に向上し、コスモ石油グループとなってからわずか1年で黒字化を達成することができました。

2012年以降も、福島県・三重県・和歌山県の3ヵ所で新たな風力発電サイトの開発を計画しています。さらに海外展開も視野に入れ、積極的に風力発電事業の拡大を検討していく予定です。

風力発電サイト一覧



稼働率（利用可能率）改善の推移

※利用可能率：稼働時間からすべての停止事由で風車が停止した時間を差し引いた時間の割合

エコ・パワー（株）の特長と今後の成長戦略

コスモ石油グループにおける再生可能エネルギー事業の中核を担うエコ・パワー（株）は、1997年に設立された風力発電業界におけるパイオニア的企業です。北海道や東北地方を中心とした風況の良い場所に、128基の発電用風車を保有しています。合計するとおよそ14万6千kWの発電能力を持ち、これは一般家庭の8万世帯分に相当します。

コスモ石油グループとなって以降は、メンテナンス体制の再構築による稼働率の向上に注力し、収益性を伴った持続可能な事業として足下を固めてきました。

東日本大震災以降、再生可能エネルギーへの社会の期待が高まり、FIT制度（固定価格買取制度）も導入されるなど、再生可能エネルギー普及への環境が大きく変化しています。エコ・パワー（株）としても、これまで培ってきたノウハウをフル活用し、新たな発電サイトの開発など、積極的に取り組んでいきます。

エコ・パワー（株）の事業活動については、公式サイトでご覧いただけます。
公式サイト http://www.eco-power.co.jp/

固定価格買取制度（FIT制度）で普及に弾み

2012年7月より再生可能エネルギーの「固定価格買取制度（FIT制度）」がスタートしました。この制度は「太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスによって発電した電力を、電気事業者に、一定の期間・価格で買い取ることを義務づけるとともに、再生可能エネルギーを買い取る費用を、電気を使用する消費者がそれぞれ使用量に応じて、「賦課金」という形で電気料金の一部として負担する*」というものです。

＊：政府広報オンラインより抜粋

メガソーラーの事業化を検討

コスモ石油グループは、グループの遊休地・未利用地の活用を中心に、メガソーラー（大規模太陽光発電）事業への参入も検討しています。また、エコ・パワー（株）の風力発電サイトにメガソーラーを併設することで、送電に必要な電気設備やメンテナンス体制が共用できることから、より効果的に再生可能エネルギー事業を展開できるメリットがあります。

写真はイメージです

風力発電の課題である発電量安定化のため、適切なメンテナンスで効率化を図っています

エコ・パワー（株）
技術管理部　技術検討グループ
林　宏樹

私の仕事は、風力発電設備の稼働率を上げるために、エラーや故障の原因を突き止めて同じ不具合を起こさないための対策を考えることです。

風車は、日々風雨にさらされ、しかも常に動いているという非常に苛酷な環境に置かれています。状態が刻々と変化をするので定期的なメンテナンスが極めて重要で、その良し悪しが稼働率を決めると言っても過言ではありません。私たちは稼働率向上に向けて5つの分野で取り組みを進めてきました。それは、①修理方法の見直し②部品在庫の最適化③点検項目の最適化④部品の信頼性向上⑤予防保全です。

つまり、それぞれの風車で過去に起きた故障履歴をとり、故障の傾向を把握することによって、最適な部品を事前に準備しておき、その部品は従来より信頼性が高いものとし、できれば故障してしまう前に交換するようにしました。また修理作業も、以前は風車をクレーンで降ろして修理工場に運んでいたものを、タワーに設置された状況のまま修理する方法に変えるなど、さまざまな施策を合わせた結果、風車が止まってしまう時間を格段に短くすることができました。

風力発電は、他の発電法に比べて歴史が浅く課題が多いのですが、課題は技術で解決可能だと思っていますので、風力発電技術を発展させることにとてもやりがいを感じています。

会社概要、財務情報

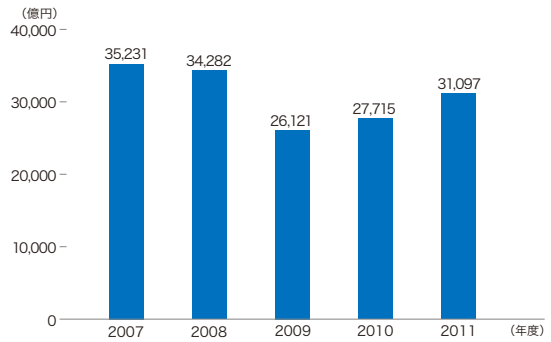
会社概要（2012年3月31日現在）

商号	コスモ石油株式会社
本社所在地	〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号
電話	(03)3798-3211
発足年月日	1986年（昭和61年）4月1日
資本金	1,072億4,681万6,126円
事業内容	石油精製・販売
社員数	2,025名
沿革	1986年4月1日大協石油（株）、丸善石油（株）および両社の精製子会社である旧コスモ石油（株）の3社が合併し、コスモ石油（株）を発足。1989年10月1日アジア石油（株）を合併。
特約店数	248店
SS数	3,498ヵ所（固定式のみ）
支店	札幌、仙台、東京、関東南、名古屋、大阪、広島、高松、福岡
製油所	千葉、四日市、堺、坂出
油槽所	35ヵ所（寄託油槽所33ヵ所を含む）

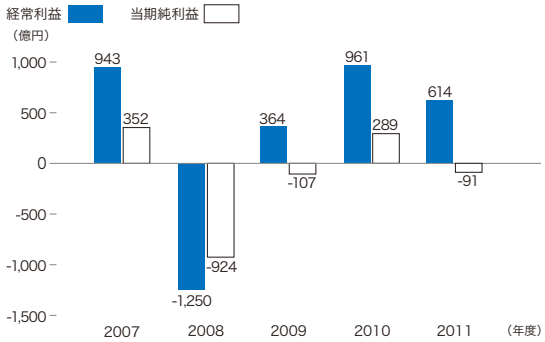
海外の拠点　アブダビ（UAE）、北京（中国）、上海（中国）、ドーハ（カタール）、トーランス/カリフォルニア州（アメリカ）、ロンドン（イギリス）、シンガポール

財務情報

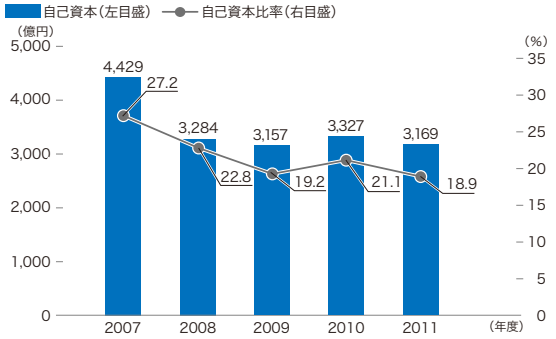
●売上高の推移（連結）



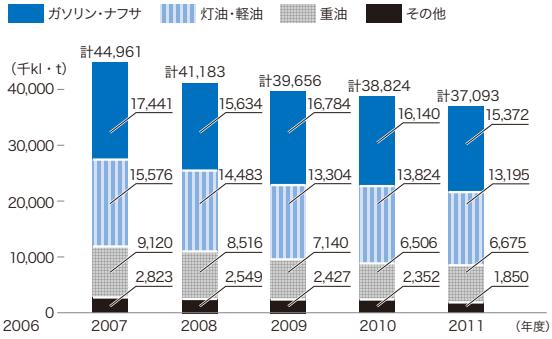
●経常利益・当期純利益の推移（連結）



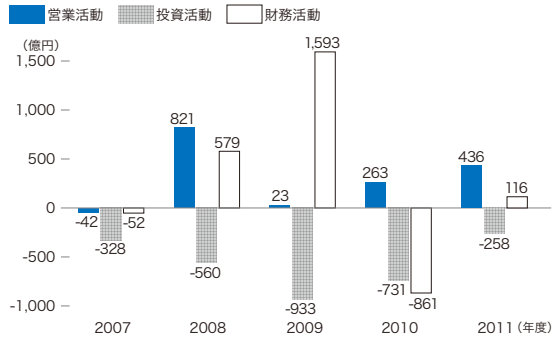
●自己資本と自己資本比率の推移（連結）



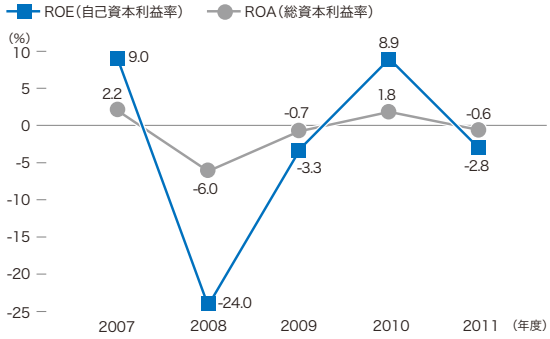
●販売状況の推移（単体）



●キャッシュ・フローの推移（連結）



●利益率の推移（連結）



編集方針

編集方針

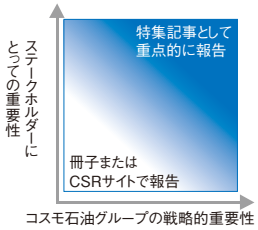
コスモ石油グループでは、2001年度から「環境報告書」、2004年度から「サステナビリティレポート」を発行してきましたが、2010年度よりタイトルを「コーポレートレポート」とし、会社案内としての情報を充実させた総合的コミュニケーションツールとして刷新しました。

本レポートの編集にあたっては、GRI（Global Reporting Initiative）の「GRIサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン 2006」を参考にしながら、ステークホルダーの皆様からいただいたアンケートなどの意見を踏まえて、ステークホルダーの皆様にとって重要性が高く、かつコスモ石油グループの経営理念や経営戦略、リスク要因と照らして重要と考えている事項*1について重点的に報告しています。さらに今回より、データ編は「ISO26000：2010」における7つの「中核主題」に沿って情報を分類し掲載しています。

また、環境パフォーマンスの集計に関しては、環境省の「環境報告ガイドライン（2012年版）」を参考にしています。

社員の所属および肩書きは2012年3月現在のものです。

＊1 報告における重要事項



対象範囲と期間

本レポートは、コスモ石油グループの2011年度（2011年4月1日～ 2012年3月31日）のCSRに関する活動を報告するものです。ただし、一部2012年度の内容も含んでいます。コスモ石油グループの全体像はP3-P4の「石油事業の流れとコスモ石油グループの状況」をご覧ください。

報告範囲*2は、第3次連結中期CSR計画を推進する下記23社が中心ですが、コスモ石油単体のデータあるいは一部の会社のみのデータがあり、それらは掲載箇所に脚注で記載しています。

＊2 対象範囲に関しては前年度の報告から重要な変更はありません。

◎石油開発
- アブダビ石油株式会社
- カタール石油開発株式会社

◎製造・販売
- コスモ石油ルブリカンツ株式会社
- コスモ松山石油株式会社

◎販売
- コスモ石油ガス株式会社
- コスモ石油販売株式会社

◎物流
- 北斗興業株式会社
- コスモ海運株式会社
- コスモ陸運株式会社
- コスモペトロサービス株式会社
- コスモテクノ四日市株式会社
- 関西コスモ物流株式会社
- 坂出コスモ興産株式会社

◎その他事業
- コスモエンジニアリング株式会社
- 株式会社コスモトレードアンドサービス
- コスモビジネスサポート株式会社
- 株式会社コスモ総合研究所
- 株式会社コスモコンピュータセンター
- エコ・パワー株式会社

◎海外
- 英国コスモ石油株式会社
- コスモオイルインターナショナル株式会社
- 米国コスモ石油株式会社

コスモ石油株式会社

発行時期

発行日：2012年9月　　次回発行予定：2013年9月（前回：2011年10月、発行頻度：毎年）

コーポレートレポートとwebとの関係

コスモ石油グループでは、より多くのステークホルダーの皆様に内容をご理解いただくため、わかりやすさ・読みやすさを追求した冊子版（本レポート）と詳細な事例・データを追加したweb版の2部構成としています。web版は、下記コスモ石油公式サイトにて公開しています。

詳細情報 CSRサイト
http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/

問い合わせ先

コスモ石油株式会社　コーポレートコミュニケーション部　CSR・環境室
TEL：03-3798- 3134　FAX：03-3798-3841　http://www.cosmo-oil.co.jp/

データ編目次

会社概要、財務情報 …… 21
編集方針 …… 22
第4次連結中期経営計画と第3次連結中期CSR計画 …… 23
組織統治/公正な事業慣行 …… 25
人権 …… 26
労働慣行 …… 27
環境報告 …… 29
消費者課題 …… 32
コミュニティへの参画およびコミュニティの発展 …… 33
第三者保証報告 …… 34

第4次連結中期経営計画と第3次連結中期CSR計画

第4次連結中計の取り組み

コスモ石油グループは、「第4次連結中期経営計画（2010年度～2012年度）」において「石油精製・販売事業での利益回復の実現」と「石油化学・石油開発事業によるポートフォリオの拡充」により、事業基盤の確立と財務基盤の再強化を達成し持続的な成長を図ることを目的として掲げています。

2011年度は、東日本大震災の影響が大きく、震災後の国内需要は回復基調にあるものの、前期に比べ減少したことや、千葉製油所が稼働停止をしたことなどにより収益は悪化しました。今後、千葉製油所を早期に復旧し国内での製品供給に万全を期すとともに、中長期的な展望に立って、第4次連結中期経営計画の達成に向け、徹底的な「合理化」と会社全体での「変革」を実行していきます。

第3次連結CSR中計の取り組み

CSR経営・環境経営の取り組みにつきましては、「第3次連結中期CSR計画（2010年度～2012年度）」にもとづき、CSR推進体制の機能向上、安全管理の強化、人権・人事施策の充実、環境対応策の推進および地域社会とのコミュニケーション活動の推進を重点項目としています。

コスモ石油グループ経営理念にもとづいてグループ社員全員参加のもと、エネルギーの安定的供給、コンプライアンスの徹底、社会貢献活動・地球環境保全活動の展開などを積極的に推進することで、エネルギーと社会と地球環境の「調和と共生」を図っていきます。また、ニーズをとらえた製品・サービスを提供し、「未来価値の創造」をめざす総合エネルギー企業として社会の持続的発展に寄与していきます。

基本方針 ❶

「石油精製・販売事業での利益回復の実現」

1.合理化計画
- 要員スリム化
- 「安全」と「保全費低減」の両立

2.石油精製
- 重質油分解装置群の最大活用による「原油調達コストの低減」と「プロダクトミックスの改善」
- 製油所の適正稼働による需給調整機能の最大限発揮

3.国内石油販売
- 販売油種構成の改善
- 流通、元売双方における適正マージンの確保

4.海外石油販売
- アジア、環太平洋での安定販路拡大

基本方針 ❷

「石油化学・石油開発事業によるポートフォリオの拡充」

1.石油化学事業
- MX（ミックスキシレン）製造装置新設　（30万トン／年）
- PX（パラキシレン）製造装置建設着手　（80万トン／年）

2.石油開発事業
- アブダビ石油（株）の利権更新
- カタール石油開発（株）「A構造南部油田」の商業生産開始
- オーストラリアオーデイシャス、テネイシャス油田の早期生産開始

3.環境・再生可能エネルギー事業
- ALA：商品化の加速と販売力の強化
- 風力発電：エコ・パワー（株）株式取得による本格参入

基本方針 ❸

第3次連結中期CSR計画（2010-2012年度）と、2011年度の取り組み状況

	重点項目	テーマ	主な活動施策・目標
第3次連結中期CSR計画	CSR推進体制の機能向上	実践度向上のための組織体制の強化	CSR推進責任者/担当者の選任および役割の再確認によるグループ全体のCSR推進体制のレベルアップ
		企業行動指針の認識度・理解度のさらなる向上	・定期的な社内研修（企業倫理研修）の継続 ・モニタリング（CSR現状調査）の実施
		社規・マニュアル類に準拠した効率的な業務の推進	・社内インフラの活用などによる業務の平準化・簡素化および情報管理強化
		危機管理体制の再構築	・全社横断的なリスクの洗い出しおよび対策策定の継続 ・教育訓練（BCP）の継続実施
	安全管理の強化（第3次連結中期安全計画） ⇒詳細はP.28を参照	事故削減の定量目標を設定し実績を評価・改善することで安全レベルの向上を図る	＜製油所・コスモ松山石油（株）＞ 事故ゼロの達成・維持（2011年：不安全不具合発生件数のベース年比90%以上削減） ＜その他部門（各事業所/グループ会社）＞ 労働災害ゼロ/削減、事故・トラブルゼロ/削減など、具体的な目標に向けた安全管理活動の維持・発展
	人権／人事施策の充実（第3次連結中期人権／人事計画） ⇒詳細はP.26を参照	人権尊重：ハラスメント防止、差別意識の撤廃	・人権研修受講率 80%以上
		多様性尊重・機会均等：公正な採用を継続	・障がい者雇用率の維持向上（法定1.8%以上）
		心身のヘルスケア増進：過重労働の禁止、特定健康診断の実施	・長時間勤務者の漸次削減
		職場と家庭の両立支援：育児・介護休職推進、余暇活動支援	・有給休暇取得率の維持向上（コスモ石油：80%以上、グループ会社：現状改善）
	環境対応策の推進（第4次連結中期環境計画） ⇒詳細はP.29を参照	事業継続を踏まえた地球温暖化防止への戦略的対応	・2012年度において現在の事業領域（原油生産、原油輸送、精製および製品輸送・貯蔵）における排出量の約3%に相当する22万t-CO_2/年以上のCO_2削減（施策実施前との比較。風力発電事業によるCO_2削減寄与分を含む） ・製造部門、製品輸送・貯蔵部門、オフィスおよび研究部門における温室効果ガスの定量管理
		環境負荷の低減	・通常運転、非定常作業時等における環境課題の抽出と対策の実施 ・産業廃棄物の削減：最終処分率目標の達成（コスモ石油：0.5%未満、対象会社計5.0%未満） ・内部監査・外部監査の充実による環境管理の徹底 ・土壌環境対応の徹底 ・エコオフィス活動の推進 （グループ全体：コピー用紙▲9%、社有車燃料▲6%、オフィス電力▲6% ※2007～2009年度の実績平均比） ・グリーン購入の推進
		環境貢献活動の推進	・コスモ石油エコカード基金を通じた環境貢献活動の推進 ・生物多様性の保全
	社会に応えるコミュニケーション活動の推進	ステークホルダーからの評価を踏まえた効果的なコミュニケーション活動の実現	お客様、地域社会、株主・投資家、国際社会など、さまざまなステークホルダーに対するコミュニケーション活動を継続

※表中の▲は削減を表します。

2011年度の取り組み状況と今後の課題

わが国経済は、昨年3月に発生した東日本大震災により深刻な打撃を受け、その後の復旧・復興努力を通じてサプライチェーンの急速な立て直しが図られたものの、世界経済の減速の影響が景気の持ち直しを緩やかにし、1年を通じて低調に推移しました。

コスモ石油グループにおいても、東日本大震災で千葉製油所の火災事故が発生するなど、例年にない事業環境となりました。また、2012年6月に同じ千葉製油所で、アスファルトが敷地外に漏洩する事故が発生しました。未だ完全復旧にはいたらず厳しい収益状況が続いています。2012年度は千葉製油所の稼働再開による収益力の回復のほか、石油開発、石油化学事業の進展による収益の拡大に取り組んでいきます。

経営方針

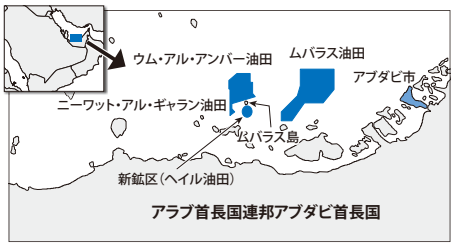
■千葉製油所再稼働
■原油生産数量回復
■供給体制再構築

今後の課題

■製油所の安全・安定操業

石油開発事業の取り組み

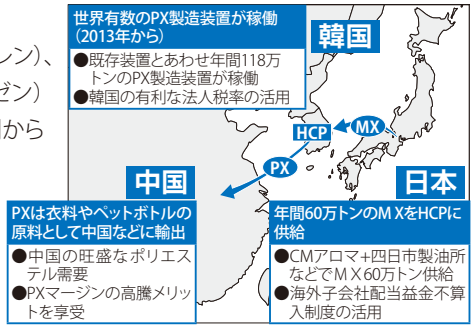
■カタール：
新油田「A構造南部油田」を2011年4月より生産開始
■アブダビ：
新鉱区「ヘイル油田」にて3D地震探鉱の準備作業中
■オーストラリア：
AC/P4鉱区探鉱井の掘削作業に移行



アブダビ石油 鉱区位置図

石油化学事業の取り組み

■アロマ事業（MX（ミックスキシレン）、PX（パラキシレン）、BZ（ベンゼン）生産事業）拡大（80万トン体制から200万トン体制へ）



新規事業への取り組み

■ALA：
家庭園芸用液体肥料は2012年3月より新商品をリリース

■風力発電：
風力発電事業の拡大をめざし、新規サイトの開発を検討

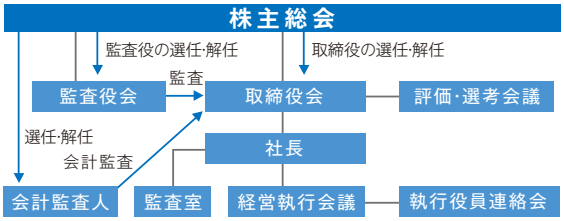
※達成度：○達成　△一部達成　×未達成

	2011年度の活動総括・主な実績	総合評価
	・CSR推進責任者・担当者を通じ6委員会の活動内容周知、自部署・会社への展開を促進	○
	・社内研修（企業倫理研修）を10月～翌年2月に実施（3,790名参加） ・2011年2月に実施したCSR現状調査結果をグループ全体に周知	
	・決裁権限規程を11月に改定（利益相反取引を明記） ・情報管理アンケート調査を12月に実施 ・外部媒体利用に係る管理強化を2012年3月に実施	
	・地震総括結果を踏まえ、全社横断的なリスク洗い出しおよび対策策定の見直しを3-6月に実施 ・東海・東南海・南海の3連動型地震を想定した教育訓練（BCP）を2012年3月に実施	
	・製造部門の不安全不具合の発生件数がベース年度と同等（ベース年115件、11年111件） ・千葉製油所火災爆発事故を受け再発防止策を実施	×
	・物流部門：異常現象1件、混油5件 ・販売・その他部門：トラブル2件	
	・人権研修受講率 85%で目標達成	△
	・コスモ石油 2.19%で目標達成	
	・長時間勤務者増で目標未達成（2010年度359人→2011年度446人）	
	・コスモ石油 86.0%で目標達成、対象会社18社中11社が改善	
	・▲27万t-CO_2/年削減で目標達成 ・省エネ法・温対法に基づく温室効果ガス排出量をとりまとめ、報告書を提出	○
	・課題を10件抽出し、予防措置の検討を実施（完了5件、継続検討5件） ・最終処分率の目標達成（コスモ石油0.4%、対象会社5.0%） ・内外監査、環境査察を実施 ・各サイトの環境影響に応じた土壌浄化、モニタリング、設備管理を計画通り実施 ・コピー用紙、社有車燃料、オフィス電力共に目標達成。特にオフィス電力は節電要請もあり、大幅削減を達成 ・重要サプライヤーで非グリーンサプライヤーであった45社のフォローアップ実施	
	・エコカード基金の全15プロジェクトを継続実施 ・生物多様性を目的とした新規4件、震災対応1件のプロジェクト支援を開始	
	・義援金拠出（コスモ石油1億円、社員/会社共同拠出16.3百万円） ・堺製油所、コスモ松山石油、千葉製油所で「コスモの森」里山保全活動を実施 ・「クリーンキャンペーン」参加者13,975名	○

コーポレートガバナンス

経営理念および企業行動指針にもとづき、「経営の透明性・効率性の向上」「迅速な業務執行」「リスクマネジメントおよびコンプライアンスの徹底」を推進しています。また、監査役制度を採用し、「取締役会」「経営執行会議」「評価・選考会議」を設置して、「経営上の意思決定・監督」と「職務の執行」「取締役業績評価」の3つの機能を分離しています。さらに監査役が取締役会などの重要な会議に出席することを通して経営監視機能の充実を図っています。

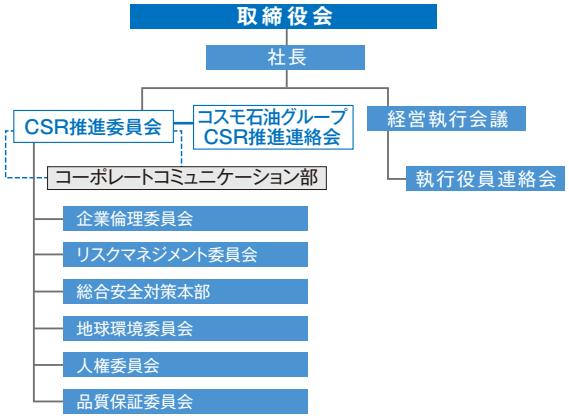
ガバナンス体制図



内部統制

コスモ石油グループでは、取締役および社員の職務執行の体制、これを支えるためのリスクマネジメント・内部監査の体制、監査役による監査が実効的に行われることを確保するための体制を整備しています。また、社長直轄の「CSR推進委員会」がグループ全体のCSRおよび内部統制を進めるとともに、グループ会社とCSR経営の情報共有を図っています。

内部統制体制図



企業倫理体制

CSR推進委員会の実行組織として、企業倫理に関する基本方針の決定・推進・実施および確認を行う「企業倫理委員会」と、それを補佐する「企業倫理推進室」を設置しています。さらに企業倫理上の問題を早期に発見して解決できるよう「企業倫理推進室」の下に「企業倫理相談窓口（ヘルプライン）」を設け、公益通報者保護法を踏まえた運用を行っています。また、製油所におけるコンプライアンスの徹底を図るため、企業倫理委員会の下部組織として、各製油所に所長を委員長とする「製油所コンプライアンス委員会」を設置しています。

企業倫理委員会は、製油所コンプライアンス委員会より「各製油所における関係法令の遵守状況」の報告を受け、2011年度のヘルプライン相談実績や企業倫理研修の開催実績などを踏まえて、2012年度の企業倫理推進計画を決定しました。

CSR研修の実施

コスモ石油グループのCSR経営に関する社員の理解を深めるため、企業倫理研修の一環としてCSR研修を実施しています。2011度は、2010年度に実施したCSRに関する現状調査の結果報告と企業倫理相談窓口の認知度向上のためヘルプラインの仕組みについての説明[*1]を行いました。

さらに新入社員を対象としたCSR研修も毎年実施しており、これらの研修を通じて社員一人ひとりがコンプライアンス（法令遵守）の気持ちを持って職務に努めること、そして法令違反を見逃さない、相談しやすい職場環境を整えていく企業風土の大切さ、そしてその判断の源が企業行動指針であることを全社で確認しています。

＊1　相談できる対象者や相談の手続きについての再周知。相談・調査・報告の各段階において相談者のプライバシーが確実に守られること、公平・公正な判断がされること、必要に応じて適切な処置およびその後のフォローアップも実施されることを再共有。

人権

第3次連結中期人権／人事計画

コスモ石油グループは、人権と人材の多様性を尊重した職場づくりに取り組んでいます。2010年から新たにスタートした「第3次連結中期人権／人事計画」では、コスモ石油および主なグループ会社（18社）で取り組む「グループ共通テーマ」と会社ごとの雇用労働者数に応じて取り組みが異なる「個別テーマ」に分類されます。「グループ共通テーマ」は、「人権尊重」「多様性尊重・機会均等」「心身のヘルスケア増進」「職場と家庭の両立支援」という4テーマで取り組んでいます。

第3次連結中期人権／人事計画の2011年度取り組み状況

※達成度：○達成　△一部達成　×未達成

		テーマ		2011年度の目標	2011年度の実績	目標の達成度
第3次連結中期人権／人事計画	グループ共通テーマ	人権尊重	ハラスメント防止、差別意識の撤廃	人権研修受講率80％以上	人権研修受講率：85％	○
		多様性尊重・機会均等	公正な採用を継続	障がい者雇用率の維持向上（法定1.8％以上）対象3社	障がい者雇用率：達成 COC:2.19% 未達 COS*1:1.26%、CEC*2:0.67%	△
		心身のヘルスケア増進	過重労働の禁止、特定健康診断の実施	長時間勤務者の漸次削減（350時間以上／年）*総労働時間低減化へ	長時間勤務者：446名（2010年度比＋87名）増加要因：震災影響および定期修繕規模拡大のため	×
		職場と家庭の両立支援	育児・介護休職推進、余暇活動支援	有給休暇取得率・コスモ石油：80％以上・グループ会社：現状改善	・コスモ石油：86％・グループ会社：対象会社18社中11社が改善	△
	個別テーマ	次世代育成支援対策推進法への対応		一般事業主行動計画の策定、届け出	対象5社が届け出完了	○

＊1 コスモ石油販売（株）
＊2 コスモエンジニアリング（株）

人権尊重

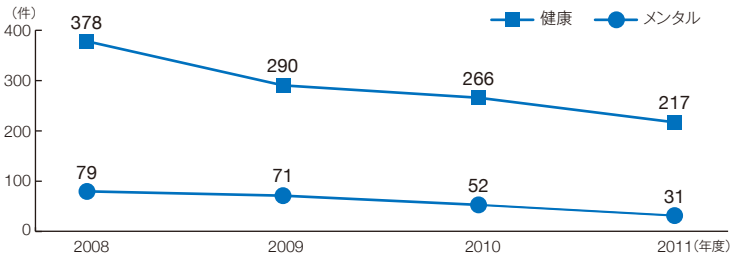
人権尊重には多くの施策がありますが、「第3次連結中期人権／人事計画」では「ハラスメント防止および差別意識の撤廃」をテーマとし、その実現のため各事業所における人権研修を実施しています。計画の目標である研修受講率80%以上に対し、2011年度の実績は85%となり目標値を上回りました。2012年度も、さらなる受講率アップに努めます。また、新入社員、新任ライン長など、階層別研修も継続し、複数の研修機会を設けています。

詳細情報 連結中期人権／人事計画
http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/social/employee.html

心身のヘルスケア

2008年度より義務化された特定健康診断に関して、コスモ石油健康保険組合と連携し本格的に取り組みを開始しました。コスモ石油健康保険組合では、精神科医・心療内科医をはじめとする専門スタッフによる電話健康相談「健康・こころオンライン」を常設し、社員およびその家族のさまざまな相談に対し、即時に責任ある回答ができるよう対応しています。

「健康・こころオンライン」相談件数



多岐にわたる相談内容となっており、健康・メンタルに関する不安、悩みは多様であることがうかがえます。相談件数上位は以下のとおりです。

健康
薬の知識、胃腸の症状、子どもの発熱、インフルエンザなど

メンタル
メンタル不安、子どもの問題、家族の問題、夫婦関係

ワーク・ライフ・バランスへの取り組みを推進

近年では、生き方や働き方に対する多様性の尊重が重視され、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を意識した取り組みの必要性がますます高まっています。コスモ石油グループでは、誰もが働きやすい明るい職場づくりを進めています。コスモ石油グループは、社員一人ひとりの価値観・人生観を尊重し、自らの希望する働き方を実現できるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮したさまざまな取り組みを推進しています。

※コスモ石油在籍および関係会社出向者。

コスモ石油社員数（2012年3月31日時点）

（単位：人）

		男性	女性	合計
コスモ石油		1,797	228	2,025
	組合員	1,371	221	1,592
	管理職	333	5	338
	シニア社員	93	2	95
グループ会社への出向者数		980	93	1,073
	組合員	673	92	765
	管理職	298	1	299
	シニア社員	9	0	9
合計		2,777	321	3,098

※コスモ石油（出向者を含む）の社員を報告範囲の対象としています。
＊1 各年度に休職を申請した人数。
（ ）内は各年度中に休職を取得した人数。

産前産後休暇・育児休職取得人数、復職支援ツール受講者数、育児休職取得率

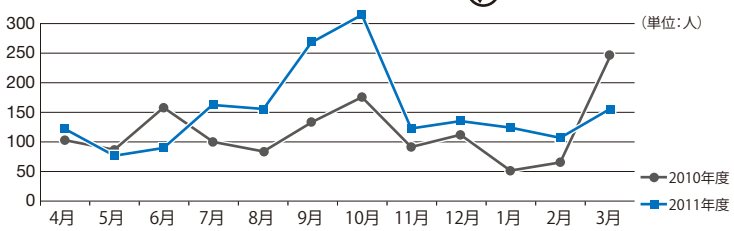
（単位：人）

	2011年度		2010年度		2009年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
産前産後休暇取得人数	0	9	0	4	0	6
育児休職取得人数*1	1（1）	5（12）	2（2）	5（9）	2（2）	4（10）
復職支援ツール受講者数	0	5	0	4	0	2
育児休職取得率	—	86%	—	75%	—	100%

長時間労働の削減によるヘルスケア

社員のヘルスケア増進のため、「第3次連結中期人権／人事計画」において過重労働の禁止・特定健康診断の実施をテーマとし、「長時間勤務者の漸次削減」に取り組んでいます。コスモ石油グループでは、時間外労働時間の限度時間を月間、年間、それぞれの期間単位で定めていますが、2011年度実績で、年間の長時間勤務者数は446名（前年度比＋87名）と増加しました。2011年3月の東日本大震災による被災からの復旧のため、製油所および物流基地を中心に多くの超過勤務が発生したことが要因です。一過性のものと考えますが、改善に着手していく予定です。

月間の時間外労働時間が所定時間を超える勤務者数



労使協調による課題の解決

社員の身分や雇用などの労働条件に影響が生じる場合は、労使双方による事前協議を行うことを「労働協約」に明記し、本社・各事業所において、経営層と労働組合との定期的な協議会や各種委員会を必要に応じて開催しています。

また、労使にて過重労働による健康障がい防止、時短推進などを目的とする「労働時間適正管理検討会」を開催し、協定の遵守および夏季・冬季の長期有給休暇取得を推進しています。

労使による協議会・委員会

会議名	開催数	内容
経営協議会	1回	全体協議（経営施策、意識調査結果など）
中央労使協議会	5回	春季労使交渉
労働時間適正管理検討会	3回	労働時間、休暇取得状況

第3次連結中期安全計画

コスモ石油グループでは、社会の皆様から信頼され、安心していただけるよう、事故や労働災害の撲滅をめざし、2005年度より製造、物流、販売の段階ごとに目標を掲げた連結中期安全計画を策定し、取り組みを進めています。2010年度からの「第3次連結中期安全計画」では、第2次に引き続き「事故ゼロをめざした活動を積極的に推し進め、お客様や社会から信頼され、社員が誇れる安全・安心なコスモ石油グループを創り上げる」ことをビジョンに掲げ、安全レベルの向上を図っています。

第3次連結中期安全計画の2011年取り組み状況

※達成度：○達成　△一部達成　×未達成

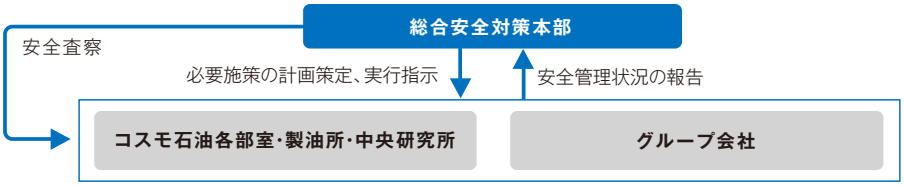
		部門/対象	2011年度の目標	2011年度の実績	目標の達成度
連結中期安全計画	製造部門	4製油所およびコスモ松山石油(株)	・不安全不具合の件数を2011年にベース年*1比90%削減(11件以下)	・不安全不具合件数：111件(ベース年*1比3%削減)	×
		コスモ石油ルブリカンツ(株)(潤滑油製造)	・労働災害ゼロ ・事故・トラブルの前年比30%削減	・労働災害：1件 ・事故・トラブルの前年比同数(15件)	×
		コスモ石油ガス(株)(LPG貯蔵・配送)	・事故・トラブルゼロの継続	・事故・トラブル：0件	○
	物流部門	コスモ陸運(株)(陸上輸送)	・混油事故根絶(0件) ・ヒヤリハット提出(目標：1万件)	・混油事故：5件 ・ヒヤリハット提出：約22,000件提出	△
		コスモ海運(株)(海上輸送)	・海上漏洩、座礁事故ゼロの継続 ・機器故障の基準年(2008年)比50%削減	・海上漏洩：0件、座礁事故：0件 ・機器故障の2008年比20%削減(12件)	△
		油槽所	・労働災害ゼロの継続 ・火災/漏洩事故の年平均2件未満	・労働災害：0件 ・漏洩事故：1件	○
		原油外航部	・活動施策の完遂	・運航担当者と船主間でトラブルの原因から対策の協議を徹底し、トラブルが前年12件から5件に減少 ・安全会議を実施し、情報共有化 ・事故発生時の流れを担当者全員で共有化し、緊急連絡網、必要情報等を整理	○
		石油製品貿易部	・船舶の動静にかかわる重大事故ゼロ	・船舶の動静にかかわる重大事故：0件	○
	販売・その他部門	販売部(SS)	・SS工事における労働災害ゼロの継続	・労働災害：0件	○
		事業開発部(コージェネレーション等)	・年間平均事故数1件以下	・事故：0件	○
		研究開発部	・年間トラブル発生件数1件以下	・トラブル：0件	○
		中央研究所	・労働災害ゼロの継続 ・事故・トラブルの対前年比削減	・休業災害：0件(不休業災害：1件) ・事故・トラブルの対前年比25%削減(53件) ・社外事故報告：2件	○
		コスモエンジニアリング(株)	・ゼロ災害の実現(労働災害の確実な削減)	・労働災害の対前年比10%削減(28件)	○

＊1 ベース年：2006年9月～2007年8月

グループ横断の安全管理体制

コスモ石油グループは、グループ横断の安全管理組織である総合安全対策本部をコスモ石油本社内に設置しています。毎年定期的に開催する本部会議において安全管理に関する重要事項の調整や審議などを行い、各部門および事業所における安全活動の取り組みなどの実行状況を把握し、安全管理体制の充実と取り組みの徹底を図っています。

安全管理体制図



安全査察

総合安全対策本部では、事業所および事業所を統括する本社部門を対象とした安全査察を毎年実施しています。2011年度は千葉製油所を除く3製油所を含む12事業所・部門を対象に安全査察を実施しました*2。特に製油所に対する査察では、社内査察員に本社のみでなく他製油所の人員を加えることで、第三者的視点から、より効果の高い改善・指導を行えるよう工夫しています。

＊2 千葉製油所は、2012年4月に2011年度分の安全査察を実施。

2011年度安全査察実施事業所／会社

コスモ石油		
千葉製油所(2012年4月に実施)	坂出製油所	物流管理部
四日市製油所	中央研究所	事業開発部
堺製油所	販売部	研究開発部

グループ会社	
コスモ松山石油(株)	コスモ石油ルブリカンツ(株)
コスモエンジニアリング(株)	コスモ石油ガス(株)

第4次連結中期環境計画

コスモ石油グループでは、2002年度より連結中期環境計画を開始し、2010年度から「第4次連結中期環境計画」に取り組んでいます。「第4次連結中期環境計画」では、「事業継続を踏まえた地球温暖化防止への戦略的対応」「環境負荷の低減」「環境貢献活動の推進」の3項目をテーマとして掲げ、取り組みを進めています。

第4次連結中期環境計画の2011年度の主な取り組み状況

※達成度：○達成　△一部達成　×未達成

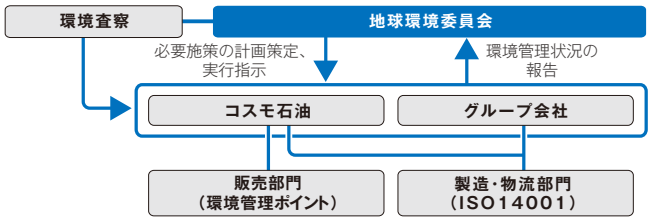
テーマ			2011年度の目標	2011年度の実績	目標の達成度
第4次連結中期環境計画	事業継続を踏まえた地球温暖化防止への戦略的対応	CO_2削減に向けた取り組み	2011年度目標(施策実施前との比較で▲24万t-CO_2/年) ①事業領域での削減(製油所の省エネルギー、バイオガソリン混合ほか)(▲9.5万t-CO_2) ②風力発電事業の展開 ▲14.6万t-CO_2相当 ③将来のCO_2削減に向けた環境技術開発や事業化調査研究	▲27万t-CO_2 ①▲11万t-CO_2(省エネルギーなど ▲4万t-CO_2、バイオガソリン混合▲7万t-CO_2) ②風力発電事業 ▲16万t-CO_2	○
		温室効果ガスの排出管理	製造部門、製品輸送・貯蔵部門、オフィスおよび研究部門における定量管理	・同部門における定量管理を継続実施 ・製油所部門360万t-CO_2(前年比▲124万t-CO_2)	○
	環境負荷の低減	通常運転、非定常作業時等における環境課題の抽出と対策の実施	製油所での条例・協定値に対して余裕のない通常運転・非定常時作業についての予防措置の検討	10件の課題を抽出し、予防措置の検討を実施 (完了：5件、継続検討：5件)	○
		産業廃棄物の削減	・最終処分率：(コスモ石油)　0.5%未満 (グループ全体)　5.0%未満 ・電子マニフェストの導入推進	・最終処分率：(コスモ石油)　0.4% (グループ全体)　5.0% ・電子マニフェスト未導入の製油所において、中計期間中の導入に向けて調査を実施	○
		環境管理における内部監査、外部監査の充実	各事業所におけるISO内部監査、ISO外部監査、環境査察の継続実施	・内部監査、外部監査、環境査察を実施し、環境管理は概ね良好 ・法令規制値超過違反件数が1件(大気関連)、協定値超過違反が3件(大気関連)あり、地元行政に報告し、是正処置を実施済み	△
		土壌環境対応の徹底	・(製油所/油槽所/社有SS)環境モニタリングおよび設備管理の継続 ・(社有SS)設備の改廃等にあわせた対応の実施	・社有SS：計画通りに対応実施 (調査実施47件、浄化実施26件) ・製油所：順次対応中	○
		エコオフィス活動の推進	コスモ石油グループ全体での省エネルギー・省資源活動の推進(基準：07-09年度平均、年間ベース) コピー用紙 ▲9%、社有車燃料 ▲6%、オフィス電力 ▲6%	コピー用紙▲10.9%、社有車燃料▲19.6%で、目標を大幅に達成 オフィス電力は、特に7～9月に東電、東北電管内の事業所にて計画を上積みして取り組み、▲23.6%と大幅に達成	○
		グリーン購入の推進	・各グループ会社において特定品目(事務用品)の見直し、選定した特定品目の100%購入 ・取引先の再調査、フォローアップ	・震災時の代替購入を除き100%達成 ・重要サプライヤーで非グリーンサプライヤーであった45社のフォローアップを実施	○
	環境貢献活動の推進	環境コミュニケーション	エコカード基金を通じた環境貢献活動の推進	・全15プロジェクトで環境貢献活動推進 ・会員参加のエコツアーを開催(浮島・里山再生)	○
		生物多様性の保全	・事業領域における生物多様性保全の推進 ・事業所周辺における里山保全活動の推進 ・生物多様性保全を目的としたエコカード基金プロジェクトの推進(新規公募プロジェクト)	・企業間勉強会を通じた事業領域の生物多様性調査実施 ・堺、コスモ松山にて里山活動を計4回実施 ・生物多様性を目的とした新規4件、震災対応1件のプロジェクトの支援を開始	○

※表中の▲は削減を表します。

横断的な環境管理体制

コスモ石油グループおよび部門横断的な組織「地球環境委員会」を中心とした独自の環境管理体制を構築しています。「地球環境委員会」が連結中期環境計画の立案・実績報告・評価などを実施し、各事業部門にフィードバックします。この体制により、すべての社員が自発的に環境活動に携わることを促し、かつ環境活動の状況を経営から現場まで共有することを実現しています。

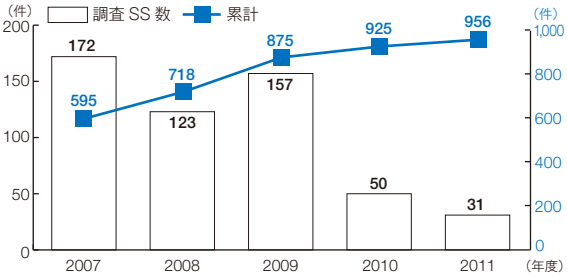
環境管理体制図



土壌における環境リスクの低減

SS、事業所などにおいて、油漏れによる土壌汚染の環境へのリスクを低減するために未然防止および万一漏洩した場合の周辺環境への影響最小化に取り組んでいます。2011年度はコスモ石油が所有するSSの設備の改廃などにあわせて47ヵ所のSSで調査を行いました(うち31ヵ所のSSが新規調査)。また浄化対策については、前年度からの継続分とあわせて26ヵ所のSSで取り組み、15ヵ所のSSで完了しました。今後も設備の改廃などにあわせて土壌調査を実施するとともに、設備管理と日常点検の徹底により、継続して土壌汚染リスクの最小化に努めます。

社有SS土壌調査実績



輸送部門の省エネルギー

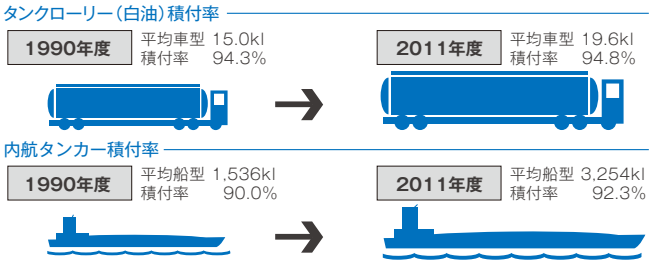
2011年度のコスモ石油単体の輸送におけるエネルギー消費原単位*1（以下消費原単位）は、8.93kl/百万トンキロとなり、前年度から0.17kl/百万トンキロ増加しました。貨物輸送量全体が6,739百万トンキロと前年度比9.8%増加したことに伴い、エネルギー使用量も60,175kl-原油と前年度比で11.9%増加し、その結果、消費原単位でも増加となりました。

タンクローリーを中心とする陸上輸送では、継続して車両の大型化やオーダー改善などによる高い積付率の維持に取り組んでおり、1台あたりの輸送量は17.90kl/回と前年度より0.05kl/回の改善、消費原単位も36.26kl/百万トンキロと前年度より0.15kl/百万トンキロ改善しました。実質的なエネルギー使用量（軽油）は、前年度比1.0%増加しましたが、貨物輸送量全体が大きく増えたため、消費原単位では前年よりも改善という結果になりました。今後も計画配送・単独荷卸を中心とした効率化を進め、さらなる省エネルギーに努めていきます。

内航タンカーによる海上輸送では、継続して船舶の大型化と高い積付率の維持に取り組みましたが、東日本大震災における千葉製油所の被災・生産停止の影響などもあり、消費原単位は6.62kl/百万トンキロと前年度より0.48kl/百万トンキロ、7.8%の増加となりました。

2012年度は、千葉製油所の生産再開を踏まえ、引き続き省エネルギーに努めていきます。

平均積付率の推移



環境配慮型SSの展開

環境と調和したSSづくりの一環として、SSへのソーラーパネルの設置や照明類へのLED光源の採用などを進めています。電気自動車用充電器は、神奈川県・東京都・大阪府のほかに静岡県でも1店舗に設置し、全国の設置SSは8店舗となるなど、電気自動車普及に向けたインフラ整備にも積極的に取り組んでいます。また、照明設備（キャノピー照明のみを含む）のLED化を全国9店舗で実施し、新設SSにおいては、看板類を含む照明のオールLED化を進めています。今後もSSにおける地球環境に配慮した取り組みを順次検討・実施していきます。

電気自動車用 急速 充電器

エコオフィス活動

コスモ石油グループでは、「コピー用紙の削減」「社有車燃料の削減」「オフィス電力の削減」の3項目を「エコオフィス活動」とし、事業所ごとに掲げた削減目標の達成に向けて社員一人ひとりが活動に取り組んでいます。2011年度は、すべての項目で目標を達成することができました。特にオフィス電力については、東日本大震災とその後の節電要請を受け、東京電力・東北電力管内の事業所において従来を上回る削減目標を設けた結果、大幅な削減を実現することができました。

なお、2011年度の目標は、2007～2009年度実績の平均値に削減率を乗じて設定しています。

「エコオフィス活動」実績

削減項目（単位）	2011年度目標		2011年度実績（目標比）			
	コスモ石油	グループ会社	コスモ石油		グループ会社	
コピー用紙（千枚）	12,955	19,030	12,772	▲1.4%	18,621	▲2.1%
社有車燃料（kl）	277	808	205	▲26.2%	728	▲9.9%
オフィス電力（千kWh）	1,012	2,216	764	▲24.5%	1,884	▲15.0%

＊1 輸送におけるエネルギー消費原単位として、エネルギー使用量（原油換算kl）を輸送トンキロ（輸送した貨物の重量（トン）に貨物の輸送距離（km）を乗じたもの）で割った値を採用しています。単位はkl/百万トンキロで表します。

※表中の▲は削減を表します。

事業活動における環境負荷

原油生産

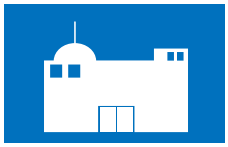
▶INPUT

エネルギー	
燃料	18,856TJ

◀OUTPUT

大気への排出	
CO_2	1,051千t-CO_2
SO_x	14,494t
NO_x	2,325t

研究所



▶INPUT

エネルギー	
購入電力・燃料	99TJ

◀OUTPUT

大気への排出	
CO_2	5千t-CO_2

原油輸送

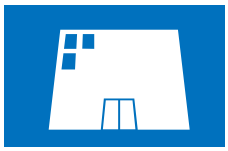
▶INPUT

エネルギー	
燃料	9,252TJ

◀OUTPUT

大気への排出	
CO_2	632千t-CO_2
SO_x	13,772t
NO_x	17,060t

オフィス



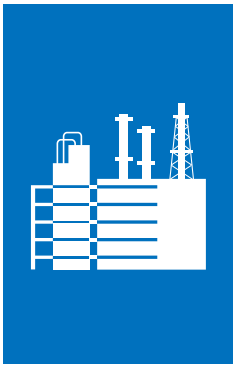
▶INPUT

エネルギー	
購入電力・燃料	24TJ

◀OUTPUT

大気への排出	
CO_2	1千t-CO_2

製　造



▶INPUT

原料	
原油	18,990千kl
その他	1,374千kl
エネルギー	
購入電力	4,519TJ (466,504千kWh)
自家燃料	52,577TJ (1,356千kl-原油)

水	
工業用水	40,505千t
海水	197,848千t
経年変化(エネルギー使用量)単位:TJ	
2009年度	69,136
2010年度	73,358
2011年度	57,096

◀OUTPUT

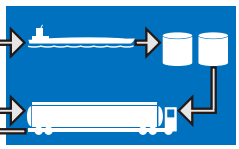
大気への排出	
CO_2	3,865千t-CO_2
自家燃料分:	3,372千t-CO_2
購入電力分:	157千t-CO_2
水素製造工程分:	335千t-CO_2
SO_x	3,473t
NO_x	1,801t
排水	
排水量	206,521千t(うち海水197,848千t)
COD	96t
窒素	46t
リン	1t

廃棄物	
発生量	64,032t
再資源化量	20,501t
最終処分量	262t
PRTR対象物質	
排出量	132t
移動量	52t
経年変化(CO_2) 単位:千t-CO_2	
2009年度	4,813
2010年度	5,093
2011年度	3,865

製品

- ●製品生産量 19,739千kl
- ●回収硫黄 185千t (副産物として)
- ●販売電力 1,311,666千kWh
- ●販売蒸気 341TJ
- ●販売CO_2 75千t-CO_2

製品輸送・貯蔵(油槽所)



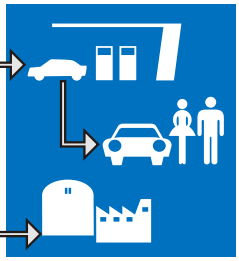
▶INPUT

エネルギー	
燃料	2,494TJ

◀OUTPUT

大気への排出	
CO_2	173千t-CO_2
SO_x	1,244t
NO_x	2,408t

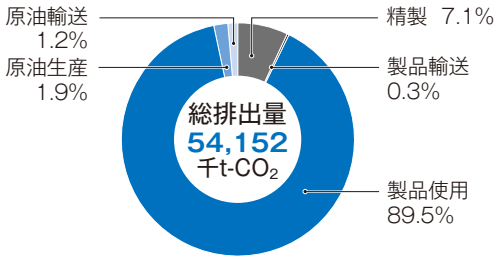
製品使用



◀OUTPUT

大気への排出	
CO_2	48,431千t-CO_2
(ほかに販売電力に起因するCO_2が906千t-CO_2、販売蒸気に起因するCO_2が19千t-CO_2あります)	
SO_x	133,039t
経年変化(CO_2) 単位:千t-CO_2	
2009年度	65,695
2010年度	63,909
2011年度	48,431

石油のライフサイクルにおけるCO_2の排出比率



○「原油生産」「原油輸送」「製品輸送・貯蔵(油槽所)」(SO_x、NO_xのみ)は、一般財団法人石油エネルギー技術センター(JPEC)の2000年3月「石油製品油種別LCI作成と石油製品環境影響評価」にもとづく推計です。
○「製造」「製品輸送」のCO_2排出量は、環境省・経済産業省の「温室効果ガス算定・報告マニュアル」にしたがい算定しています。
○「製品使用」の数値の計算方法および前提はWeb(詳細情報 環境会計)をご参照ください。エネルギー消費量は、エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネルギー法)の規定にしたがって算定しています。
○「製造」には、四日市霞発電所、コスモ松山石油(株)、コスモ石油ルブリカンツ(株)のデータを含みます。なお、コスモ石油ルブリカンツ(株)の水関連データ、NO_x、SO_xは含まれておらず、CO_2排出量は2011年度のみ含んでいます。
○販売電力とは、千葉製油所、四日市霞発電所およびコスモ松山石油(株)から外部供給した電力のことです。「製造」からのCO_2排出量は、この販売電力分のCO_2排出量を差し引いたものとなっています。逆に購入電力分のCO_2は「製造」に含んでいます。
○販売蒸気とは、千葉製油所およびコスモ松山石油(株)から外部供給した蒸気のことです。「製造」からのCO_2排出量は、この販売蒸気分のCO_2排出量を差し引いたものとなっています。
○「製品使用」のSO_xは参考値です。製品の硫黄分から算定した潜在SO_x量であり、お客様使用時の脱硫による低減は考慮していませんので、実際のSO_x排出量はこれより低い数値になります。
○「製品使用」のCO_2では、ほかに販売電力、販売蒸気に起因するCO_2を別集計しています。
○ナフサは主に石油化学原料として使用され、直接的にはCO_2、SO_xを排出しませんが「製品使用」のCO_2、SO_xは、ナフサを含めて計算しました。
○「廃棄物」には、事業活動に伴って発生したもので、有価で売却されたものも含みます。
○「オフィス」には、コスモ石油本社および支店のデータを含みます。
○「研究所」には、コスモ石油(株)の中央研究所およびコスモ石油ルブリカンツ(株)の商品研究所を含みます。

詳細情報 事業所別パフォーマンスデータ
http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/site/

詳細情報 石油ライフサイクルインベントリー(LCI)
http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/lca.html

詳細情報 環境会計
http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/data/ev_accounting.html

消費者課題

ブランドサポート宣言

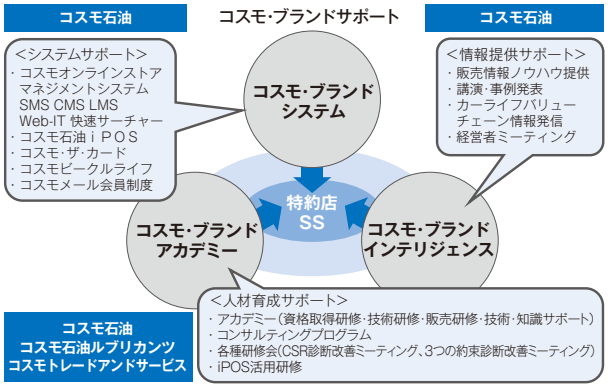
2011年度は、お客様のニーズに対応した質の高い活動に取り組むことで、「コスモ石油」というブランドがお客様から選ばれるブランドとなるべく取り組みました。また、具体的なブランドサポート方針を3つの「ブランドサポート宣言」として発信しています。

これらの取り組みを通じ“ココロも満タンに”宣言の実行度を高め、ステークホルダーの皆様から高い評価をいただけるブランドの実現をめざしています。

宣言1 コスモ・ブランドならではの顧客管理やSS運営をサポートするシステムの提供
⇒コスモ・ブランドシステム

宣言2 実績に裏付けられた実践的ノウハウの提供
⇒コスモ・ブランドアカデミー

宣言3 将来を見据えた商品開発やリテール最新情報の発信
⇒コスモ・ブランドインテリジェンス

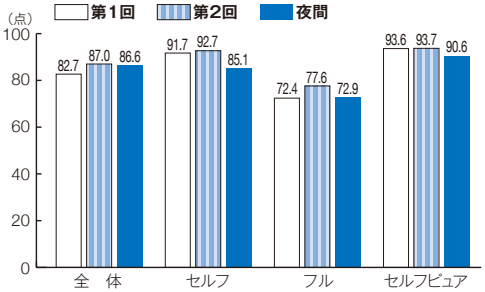


「3つの約束」をモニター調査

お客様との3つの約束が各SS店頭で忠実に実践されているかを確認するため、SSにおける「心地良さ」「安心感」「信頼感」をお客様目線でチェックするモニター調査を実施しており、お客様の満足度の向上に努めています。2011年度は24時間営業のSSを対象とした夜間調査も実施し、約1,300のSSがエントリーしました。調査結果はSSへフィードバックし、店頭におけるサービス向上に役立てています。

詳細情報 **“ココロも満タンに”宣言**
http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/mantan/

「“ココロも満タンに”宣言」3つの約束診断結果の推移（2011年度）



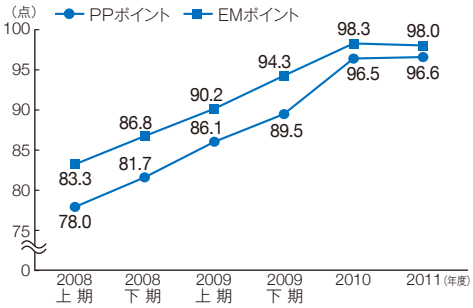
セルフ：セルフサービスSS　フル：フルサービスSS
セルフピュア：ローコスト運営のセルフサービスSS

SSにおけるCSRの現状調査

“ココロも満タンに”宣言活動の実践には、社会の一員としてCSRの徹底が欠かせません。SSを取り巻くさまざまな法令の遵守状況等を確認するため、個人情報保護（PP）調査ならびに環境管理（EM）調査などのCSR診断を毎年実施し、その結果を基に改善を図っています。2011年度は約1,350のSSが参加しました。

関連情報 **情報管理**
http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/social/customer.html

PPポイント・EMポイントの推移

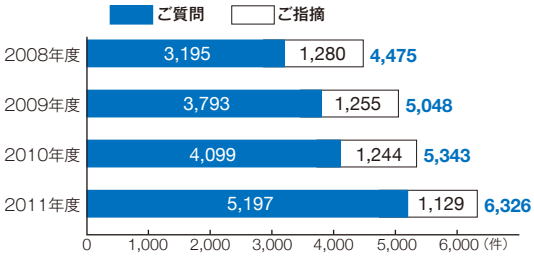


お客様サポート体制の充実

お客様との双方向コミュニケーションを目的に「コスモ石油カスタマーセンター」を開設しています。2010年10月より、電話によるお問い合わせ受付の24時間化を実施しました。寄せられたお客様の声は、サービス向上・業務改善に役立てています。

関連情報 **お問い合わせ**
https://www.cosmo-oil.co.jp/contact/
フリーダイヤル　0120-530-372

お問い合わせ件数※



※ 東日本大震災に関連するお問い合わせは含まれておりません。昨年度のお問い合わせ件数と異なるのはそのためです。

コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

国連グローバル・コンパクトへの参加

コスモ石油グループは、2006年より国連が提唱するグローバル・コンパクトに参加しており、人権・労働基準・環境・腐敗防止にかかわる10原則を支持することによって、CSR経営を推進する企業姿勢を社会に対しコミットし、CSR活動のさらなる向上をめざしています。

また、国連グローバル・コンパクトの日本におけるローカル・ネットワークである「グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク」にも参加しています。グローバル・コンパクト参加を通じて、事業活動はもとより持続可能な社会の実現に積極的に取り組み、企業と地域社会が協調しながら社会全体を持続的に発展させて行くことをめざしています。

THE GLOBAL COMPACT
WE SUPPORT

諸外国との技術交流を実施

コスモ石油海外技術協力センターは、産油国および発展途上国との間で技術協力事業ならびに研修事業を中心とした技術交流を通して友好関係の維持・発展に努め、相手国から高い評価をいただいています。なお、研修事業の実施に際しては、一般（財）国際石油交流センター（JCCP）などの助成制度も活用しています。

2011年度の主な活動

技術協力事業では、JCCPの「産油国石油産業等基盤整備事業」に参加し「オマーン国製油所の環境対応に向けた設備および運転改善に関する技術指導」を実施しました。研修事業に関しては、UAE、カタール、オマーン、ベトナム、インドネシア、タイおよび中国の7ヵ国13機関に対し、受入10件、派遣7件の研修を実施しました。その他JCCP直轄研修において5件の講義を引き受けました。

2011年度 海外技術協力 研修事業一覧

受入研修		
国名	研修内容	研修回数
UAE	CSRと環境管理	1
カタール	製油所装置運転技術 など	3
タイ	製油所管理、環境・安全技術	2
中国	安全運転、環境管理、省エネルギー など	4
合計		10

派遣研修		
国名	研修内容	研修回数
UAE	地球環境問題と石油会社の取り組み	1
カタール	製油所管理と技術的課題	1
オマーン	安全運転と設備管理	1
ベトナム	精製技術	1
インドネシア	環境管理と触媒開発	1
中国	環境管理と省エネルギー など	2
合計		7

主な社会貢献活動

コスモ石油は、経営理念のひとつである「企業と社会の調和と共生」にもとづき、「未来の社会をつくる子どもたちの啓発」「地球環境の保全」「文化的社会の構築」をコンセプトとして社会貢献活動に取り組んでいます。

2011年度に実施した社会貢献活動一覧

主催プログラム	活動内容	開催日
第19回コスモわくわく探検隊	交通遺児の小学生を対象とした自然体験プログラム	2011年8月4日～8月6日（2泊3日）
パパとキッズのアートプログラム Part3	父親の育児参加を応援するコミュニケーションプログラム	2011年9月19日（高松） 2011年10月15日（大阪） 2012年1月14日（千葉） 2012年3月10日（四日市）
コスモ クリスマスカード・プロジェクト 2011	入院中の子どもたちにメッセージをそえたクリスマスカードを贈るプロジェクト	2011年11月～12月
コスモ絵かきっず	児童養護施設で実施するグループ社員による手作りワークショップ	2011年12月17日
Jazz Night @ 魚籃寺 チャリティー・ジャズ・コンサート	入院中の子どもに付きそう家族のための宿泊施設「ファミリーハウス」を支援するチャリティ・コンサート	2012年3月2日
献血活動	社員による献血活動	2011年6月20日 2011年12月15日
おかし屋ぱれっと社内販売会 ～コスモ・スウィーツマーケット～	知的障がい者などの自立支援	2011年5月27日 2012年2月28日

第三者保証報告

KPMG

独立保証報告書

2012 年 8 月 20 日

コスモ石油株式会社
代表取締役社長　森川 桂造 殿

KPMG あずさサステナビリティ株式会社
東京都新宿区津久戸町 1 番 2 号
代表取締役社長　斎藤 和彦

目的及び範囲

当社は、コスモ石油株式会社（以下、「会社」という。）からの委嘱に基づき、会社が作成したコーポレートレポート 2012（以下、「コーポレートレポート」という。）に対して限定的保証業務を実施した。本保証業務の目的は、コーポレートレポートに記載されている 2011 年 4 月 1 日から 2012 年 3 月 31 日までを対象とした ✓ マークの付されている環境・社会パフォーマンス指標（以下、「指標」という。）が以下に示す会社の定める基準に従って作成されているかについて保証手続を実施し、その結論を表明することである。コーポレートレポートの記載内容に対する責任は会社にあり、当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続に基づいて結論を表明することにある。

判断規準

会社は環境省の環境報告ガイドライン 2012 年版及び Global Reporting Initiative のサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン 2006 等を参考にして定めた指標の算定・報告基準（以下、「会社の定める基準」という。）に基づいてコーポレートレポートを作成しており、当社はこの会社の定める基準を指標についての判断規準としている。

保証手続

当社は、国際監査・保証基準審議会の国際保証業務基準（ISAE）3000「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」（2003 年 12 月改訂）及びサステナビリティ情報審査協会のサステナビリティ情報審査実務指針（2009 年 12 月改訂）に準拠して本保証業務を実施した。本保証業務は限定的保証業務であり、主としてコーポレートレポート上の開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。

当社の実施した保証手続には以下の手続が含まれる。

- コーポレートレポートの作成・開示方針についての質問
- 会社の定める基準の検討
- 指標に関する算定方法並びに内部統制の整備状況に関する質問
- 集計データに対する分析的手続の実施
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施
- リスク分析に基づき選定した堺製油所における現地往査
- 指標の表示の妥当性に関する検討

結論

上述の保証手続の結果、コーポレートレポートに記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める基準に従って作成されていないと認められる事項は発見されなかった。

当社及び本保証業務に従事したものと会社との間には、サステナビリティ情報審査協会の倫理規程に規定される利害関係はない。

以 上

第三者保証業務を終えて

今回、「事業活動における環境負荷」の開示対象組織を拡大し、コスモ石油ルブリカンツ（株）での製造に伴う環境パフォーマンス指標、コスモ石油ルブリカンツ（株）およびコスモ石油ガス（株）の製品輸送に伴う環境パフォーマンス指標を新たに加えられています。この「事業活動における環境負荷」に「製品販売」という項目を新たに設け、サービスステーションなどでの環境パフォーマンス指標が加えられれば、石油開発から石油製品販売までの一連の事業活動に伴う重要な環境パフォーマンス指標がほぼ網羅的に開示されるようになると考えます。なお、新しく開示対象に加えられた組織のデータに関しては、現状、本社における管理方法が他の組織のデータと異なっており、誤りが生じやすい状況にありますので、管理方法を統一することが望まれます。

社会パフォーマンス指標に関しても、現状として開示対象組織がコスモ石油単体に限定されている指標が少なくありませんが、環境パフォーマンス指標と同様、範囲の拡大を検討してはどうかと考えます。また、2013年度からはじまる次期連結中期CSR計画でも、コスモ石油グループ全体としてのCSRマネジメントをより意識した目標設定や施策立案が期待されます。

KPMGあずさサステナビリティ株式会社
赤坂　真一朗

COSMO OIL CO., LTD.

コーポレートレポート2012の制作にあたり、以下の配慮を行っています。

'12 COLOR UNIVERSAL DESIGN

カラーユニバーサルデザイン認証の取得
色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの方に美しく見やすい表示を心がけました。NPO 法人カラーユニバーサル機構(CUDO)から認証を取得しています。

Printed in Japan